

令和6年度分

泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

PDCA サイクル 進捗管理シート

令和 6 年度分	担当課	農林水産課
----------	-----	-------

基本目標	① 安定した雇用を創出する	
基本的方向	農業等の振興	
具体的施策	①地域資源を活かした産業振興と創業支援	
事業名	泉佐野産（もん）普及促進事業	
事業概要	【最終予算額： 30,093,000円】 【決算額： 28,151,637円】 泉佐野で収穫された地場野菜や魚介類を活用したオリジナルレシピを基に、6次産業化に資するレシピを商品化し、地場野菜のブランド化と6次産業化の促進を行う。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 農商工連携または6次産業化に取り組む企業・団体・農業者数									
		KPI： 5年間で9者へ増加									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	7者	7者	7者	8者	8者	9者			
		実績値	7者	7者	7者	8者	9者				
		達成度	100%	100%	100%	100.0%	112.5%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		この数値の把握により、市域で生産された農林水産物の販売ルートや販売量の拡大につながる動きが進展し、地産地消の関心の高まりを示す指標となると考えられるため									
		事業で当市産を使ったメニューを開発し、公表することで市内外の飲食店での活用を促し、さらなる農商工連携を図る。連携はこの5年間で2者の増加を把握しているため目標とした。									
		②目標事項：									
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						

令和6年度	評価（C）	【6年度評価】
		担当課評価 B 令和6年度は、6人のシェフに市内の特産品である水なす、松波キャベツを使ったオリジナルレシピを考案して頂いた。ホテル日航関西空港のシェフは、そのレシピの料理を提供したり、他のシェフも自身の店でレシピの料理を提供した。この取り組みをラジオや雑誌等のメディアで取り上げてもらったことや、ミツカンボン酢の小冊子の一部に泉佐野産の水なすの良さを記載してもらい、飲食店や食品スーパーで配布されたことにより、泉佐野産野菜の価値向上につながった。また、令和4年度より企業版ふるさと納税による寄付金を活用し、泉佐野市の食材を全国のこども食堂に届ける取り組みを行った。子どもたちが成長できる環境づくりに貢献できるとともに、泉佐野市の食材を購入することを通じて、市内の生産者支援にもつながった。
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】 令和7年度は引き続き、市内のホテルの協力を得たうえで、泉佐野産食材を使ったメニューの提供をしていくことで、泉佐野産食材の更なるブランド化を図り、6次産業化を目指す。また、企業版ふるさと納税による寄付金を活用し、子どもたちが成長できる環境づくり及び市内の生産者の活用を図る。
	委員会意見	【評価等に対する意見】
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	おもてなし課
----------	-----	--------

基本目標	① 安定した雇用を創出する	
基本的方向	しごとの創生	
具体的施策	②企業誘致	
事業名	企業誘致奨励金事業	
事業概要	【最終予算額： 417,528,000円】 【決算額： 381,994,220円】 市の発展と雇用の増大を図るなど、市民福祉の向上のため、市内に新たに事業所を建設・設置される方（企業）で、一定条件を満たす場合に奨励金を交付する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 企業誘致奨励金交付企業数									
		KPI： 5年後に25社									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	15社	17社	19社	21社	23社	25社	累計	↑	
		実績値	15社	17社	17社	17社	18社				
		達成度	100%	100.0%	89.5%	81.0%	78.3%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		交付企業数が増えることで、事業目的の達成につながるため。					過去5年で6社の増加（年1.2社）となっており、さらなる上昇値（年2社）を目標とする。				
		②目標事項： 上記企業の新規雇用者数									
		KPI： 5年後に739人									
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値	614人	639人	664人	689人	714人	739人	累計	↑			
実績値	614人	1,142人	1,142人	1,150人	1,150人						
達成度	100%	178.7%	172.0%	166.9%	161.1%						
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
新規雇用者数が増えることで、事業目的の達成につながるため。					過去5年で101人の増加（年20.2人）となっており、さらなる上昇値（年25人）を目標とする。						
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						

令和6年度	評価（C）	【6年度評価】 担当課評価 C KPIについて交付企業数は、これまで主にりんくうタウン域内の企業に対して交付しているが、域内の進出可能な地域が埋まってきたことから、令和6年度については目標に達しなかった。今後はりんくうタウン域内のテナント入れ替え時期や経済情勢などにより、交付企業数及び新規雇用者数は左右され则认为している。
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】 企業誘致については、経済情勢に大きく左右されるところであるが、R11(2029)年度に換地処分予定の泉佐野丘陵東地区などの本市の立地状況等を踏まえ、ビジネスチャンスとなるであろう企業に本市の魅力を的確に伝えとともに、雇用面等本市にとって大きな効果の期待が出来る産業分野を中心に、企業の発掘・誘致を引き続き進めていく。
	委員会意見	【評価等に対する意見】 委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	ふるさと創生課
----------	-----	---------

基本目標	① 安定した雇用を創出する
基本的方向	官民連携の推進
具体的施策	②企業誘致
事業名	地場産品創出支援事業
事業概要	【最終予算額：1,392,417,000円】 【決算額：1,392,417,000円】 企業と地方と寄附者をつなぐ「#ふるさと納税3.0」を利用して企業から新たな地場産品の提案を受けてクラウドファンディング（ふるさと納税）のプロジェクトを実施する。寄附目標額が達成した場合は正式に誘致し、寄附金を原資に生産拠点の整備費用となる補助金を交付する。そこで生産された地場産品をふるさと納税の返礼品として届けていくという企業誘致の新しいカタチである。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 補助金を交付し、企業誘致が達成した件数									
		KPI： 年間9件									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	—	9件	9件	9件	9件	9件	単年度計	→	
		実績値	—	2件	14件	14件	12件				
		達成度	—	22%	156%	156%	133%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		民間企業の新たな投資が対象であり、不安定な要素はあるが令和2年度の実績を根拠とする。					令和2年度に実施しているプロジェクトの中で補助金を交付し、ふるさと納税で返礼品を提供される実績を根拠とする。				
		②目標事項： 新規提案を受付、CFを実施し、補助金を交付する予定事業の件数									
		KPI： 年間9件									
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考		
目標値	—	9件	9件	9件	9件	9件	単年度計	→			
実績値	—	13件	5件	18件	25件						
達成度	—	144%	56%	200%	278%						
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
民間企業の新たな投資が対象であり、不安定な要素はあるが令和2年度の実績を根拠とする。					令和2年度に実施しているプロジェクトの中で補助金を交付し、ふるさと納税で返礼品を提供される実績を根拠としていたが、事業が年度を越えて実施されるといった実情に合せて、補助金の交付予定の件数を新たな根拠とする。						
③目標事項：											
KPI：											
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考		
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	担当課評価	【6年度評価】 これまで「#ふるさと納税3.0」を活用して事業拡大等に取り組んできた事業者の体験談、成功事例を積極的に発信してきており、他自治体の議会や職員の視察も年々増加している。返礼品提供事業者から相談があった場合には、その思いを大切にしつつ、取扱商品や寄附受入実績に応じたプロジェクト提案を促している。結果として、令和6年度は新たに22件のプロジェクトを採択し、KPI①②ともに目標値を大きく上回る件数を達成することができた。								
		A									
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】 令和7年度については、総務省告示の改正等にも的確に対応できるよう、CF実施スケジュールを策定し、より効果的・効率的に事業を推進してまいりたい。また、これまでの実績等を積極的に発信し、全国各地の事業者へ「#ふるさと納税3.0」の活用を促すとともに、農産物や海産物の生産・加工等をはじめ、地場産業・地域経済の発展に寄与する新たな事業展開も検討・促進してまいりたい。									
		委員会意見	【評価等に対する意見】 委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		まちの活性課							
基本目標	① 安定した雇用を創出する										
基本的方向	しごとの創生										
具体的施策	③地域産業の競争力強化										
事業名	エリアマネジメント活動推進事業										
事業概要	【最終予算額： 45,741,000円】 【決算額： 36,512,838円】										
	泉佐野市の中心市街地の活性化を図るため、中心市街地のエリアマネジメントの推進と、女性等の社会進出のサポートを通じた中心市街地エリアにある遊休不動産の活用、商店街への人が集う仕組みの構築、商店街をはじめとする中心市街地の再生に取り組むもの。										
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 遊休不動産を活用して新たに事業開始した件数									
		KPI： 5年後に13件（10件の増加）									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	2件	6件	8件	10件	11件	13件	累計		
		実績値	3件	6件	12件	20件	29件				
		達成度	150.0%	100.0%	150.0%	200.0%	263.6%				
		KPI設定の根拠				KPI目標数値の積算根拠					
		中心市街地エリアの遊休不動産解消件数が、中心市街地の活性化に直結するものと考えているため				中心市街地エリア内にある遊休不動産で、大幅な改修工事を必要としない物件の件数（132件）のうち、活用できる物件の1割を設定					
		②目標事項： 女性等の社会進出支援人数									
		KPI： 5年後に150人									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	10人	60人	80人	100人	120人	150人	累計		
		実績値	0人	108人	146人	169人	187人				
		達成度	0.0%	180.0%	182.5%	169.0%	155.8%				
		KPI設定の根拠				KPI目標数値の積算根拠					
女性等の非労働力人口から労働人口へ移行した人数は、地域経済への貢献度を示す数値と考えているため				単年度の支援（セミナー等の参加など）人数：40人の半数を目標として社会進出支援につなげることを目標に設定							
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠				KPI目標数値の積算根拠							
令和6年度	評価（C） 改善（A） 委員会意見	【6年度評価】									
		担当課評価	中心市街地等の活性化を図るために、遊休不動産を活用した起業や新規開店を促し、9件の成果を得た。また、起業希望の女性をターゲットとしたセミナーやワークショップを積極的に行い、のべ18名が参加し、うち9名は新規出店に至った。								
		A									
		【7年度における取り組みなど】 昨年に引き続き、空き店舗等活用型新事業創出支援補助金の申請受付・審査を行い、中心市街地等の活性化を図る。また、R7より運営を開始するさの町場に位置する「甘味茶屋さのまち庵」を活用し、女性の社会進出を推進するため、ワークショップやコーチングを昨年同様に行い、対象者同士やこれまでの参加者も含めたコミュニティ形成もめざしていく。									
委員会意見		【評価等に対する意見】									
委員会評価											

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		まちの活性課	
----------	--	-----	--	--------	--

基本目標		① 安定した雇用を創出する					
基本的方向		しごとの創生					
具体的施策		④就労支援					
事業名		地域就労支援事業					
事業概要		【最終予算額：12,724,000円】 【決算額：12,352,399円】 働く意欲がありながら雇用や就労を実現できない就職困難者等に対し、地域就労支援事業の活用、相談、資格取得講座への誘導等を行い、一人でも多くの就労の実現に向けて支援をする。					

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 就労相談を受けた就労希望者及び市実施就労支援事業参加者のうち就労に結びついた就労者数									
		KPI： 年間25人									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	25人	25人	25人	25人	25人	25人	単年度計	→	
		実績値	14人	24人	19人	28人	30人				
		達成度	56%	96%	76%	112.0%	120.0%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		就労支援事業の最終目標は、就職困難者、就労希望者等を就労に結びつけることであることから、当該成果指標とした。					経済情勢の影響が大きいため、一定数確保することを目標とする。				
		②目標事項： 自治体主体の公式求人サイトに登録した求職者のうち登録のあった事業所への就業件数									
		KPI： 3年後に9,288件									
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考		
目標値	—	—	—	2,160件	5,400件	9,288件	累計	↗			
実績値	—	—	—	1,887件	4,947件						
達成度	—	—	—	87.4%	91.6%						
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
求職者と、人材確保や業務効率化を求める地域企業を繋ぎ、柔軟な働き方による眠れる労働力を掘り起こすことを目標に、当該成果指標とした。					経済情勢の影響が大きいため、求職者及び事業所の一定数確保を行い、安定した運用を目標とする。						
③目標事項：											
KPI：											
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考		
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						

令和6年度	評価（C）	【6年度評価】	
		担当課評価	市内3か所にある地域就労支援センターにおいて実施している就労相談からの就職件数は前年より増加した。市実施就労支援事業参加者のうち就労に結びついた就労者数については、前年度は28人、今年度は30人と増加した。 また、令和5年度より開始したデジタル技術を活用した1日単位で就労可能な自治体主体の公式求人サイトにおいては、柔軟な働き方を求める求職者と人材確保や業務効率化を求める市内企業を繋ぎ、短期単発へのニーズに対応し、従来からの長期雇用への支援ともに安定した雇用を創出することができた。
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】	
		相談者の状況に応じた、きめ細やかな支援ができるメニューを提供していく。	
	委員会意見	【評価等に対する意見】	
委員会評価			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		まちの活性課							
基本目標	① 安定した雇用を創出する										
基本的方向	人材還流・人材育成										
具体的施策	⑤人材育成・雇用機会の拡充										
事業名	外国人受入環境整備事業										
事業概要	【最終予算額：32,554,000円】 【決算額：32,107,458円】										
	市内在住する外国人材の労働環境及び日常生活における多文化共生社会の実現に向けたワンストップ相談窓口の設置、及び人材不足が喫緊の課題となっている業種への優良な外国人材の確保・育成を通じた雇用マッチング、地域社会の交流支援などを実施するもの。										
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 外国人就労者あっせん数									
		KPI： 5年後に60人									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	—	20人	30人	40人	50人	60人	累計	↑	
		実績値	—	—	—	4人	13人				
		達成度	—	—	—	10.0%	26.0%				
		KPI設定の根拠 日常生活を安心して営むにおいて、外国人材の雇用を確保できたか判断するに当たっての指標と考えるため					KPI目標数値の積算根拠 1年間に10人以上のあっせんを目標として事業設計を行っていることより				
		②目標事項： 施設の利用者数									
		KPI： 5年後に750人									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	—	150人	300人	450人	600人	750人	累計	↑	
		実績値	—	—	274人	1,258人	2,801人				
		達成度	—	—	91.3%	279.6%	466.8%				
		KPI設定の根拠 外国人材の相談者数は多文化共生社会の実現に向けた課題を早期発見する場所として、外国人材からの拠点の認知度と、外国人材の相談内容を通じて、必要な施策を展開や制度の創設が発掘でき、本事業の目的を達成するのに必要な指標であると考えため					KPI目標数値の積算根拠 初年度は施設稼働日数の半分を目標としており、その後同数以上の利用者数の増加を目標に事業設計しているため				
		③目標事項：									
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値							累計				
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C） 改善（A） 委員会意見	【6年度評価】									
		担当課評価	外国人就労者のあっせんは困難な状況が続いているが、R6年度は年間目標値に近い9件の実績となった。								
		C	外国人就労者に関するワンストップ相談窓口については、R6年度は1,543人から1,576件の相談をつけ、順調に役割を果たしている。								
		【7年度における取り組みなど】									
		コロナ禍の影響が落ち着き、外国人就労者への需要が増大することが予測されるため、今後のニーズに的確に対応し、市内事業者と外国人就労者とのマッチングやワンストップ相談窓口対応をさらに充実させていく。									
【評価等に対する意見】											
委員会評価											

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	都市計画課
----------	-----	-------

基本目標	② 定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる	
基本的方向	都市魅力の創出・発信	
具体的施策	①定住・移住の促進	
事業名	住宅総合助成事業	
事業概要	【最終予算額：75,000,000円】 【決算額：61,750,000円】	
	○住宅総合助成事業…本市で自ら居住する住宅を建替える場合や、新築住宅を購入し居住する場合に、泉佐野ポイントカード「さのぼ」に地域ポイントを付与するもの。 ○空家バンク制度…本市に定住希望する方に対し、登録条件を満たした空家の情報提供をし当該住宅を購入又は賃貸する場合に、泉佐野ポイントカード「さのぼ」に地域ポイントを付与するもの。	

計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 住宅総合助成事業による泉佐野ポイントの付与件数									
		KPI： 5年間で800件									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	208件	520件	680件	840件	1,000件	1,160件	累計	↑	
		実績値	208件	530件	893件	1,227件	1,474件				
		達成度	100%	101.9%	131.3%	146.1%	147.4%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		本市の定住・移住促進施策である「住宅総合助成制度」は、地域コミュニティの維持強化を促進する町会加入を要件とし、本制度の利用者数が定住・移住者数及び町会加入者数に直結することから、この数値を指標とするもの。					平成27年度から平成31年度の間で新築住宅又は空家バンクに登録された中古住宅を購入し、本市に定住された実績は230件／年となっている。町会加入を条件とし、加入率を5年間の平均で70%（現在58%で、5年後に80%目標）で設定230件／年×70%÷160件／年				
		②目標事項： 空き家バンクに登録された物件数									
		KPI： 5年間で125件									
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値	103件	148件	173件	198件	223件	248件	累計	↑			
実績値	103件	137件	148件	155件	168件						
達成度	100%	92.6%	85.6%	78.3%	75.3%						
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
空家（中古住宅）の利活用を目的とする本制度は、市が空家情報を発信し、売買契約が成立することにより、定住・移住者数の増加に直結することから、当該登録件数を指標とするもの。					泉佐野市空家等対策計画の評価指標において、平成27年度から平成34年度の8年間で200件を設定している。200件／8年＝25件／年						
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	平成27年5月からはじまった住宅総合助成事業は、令和2年度に町会加入を要件に追加し、KPIの見直しを行った結果、目標値を上回るものの、令和2年度から令和3年度にかけて、やや減少傾向にあった。しかし、令和4年度から、従来の定住移住促進と地域経済の活性化を進めるため要件を緩和し、一時的に申請件数は大幅に増加傾向に転じていたが、今年度はそれに落ち着きが見られる結果となった。空き家バンク制度については、令和2年度から減少傾向にあり、目標値を下回る傾向となっている。								
		B									
		【7年度における取り組みなど】 令和4年度から、従来の定住移住促進と地域経済の活性化を進めるため要件を緩和し、令和5年度から引き続き、同条件で継続し、それに伴う予算措置を行っている。また、空き家バンクについては、関連団体等の協力を得て、周知を図ります。									
改善（A）	委員会意見	【評価等に対する意見】									
		委員会評価									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課	まちの活性課								
基本目標		② 定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる									
基本的方向		観光による交流人口拡充									
具体的施策		②観光による交流人口の拡充									
事業名		観光振興事業									
事業概要		【最終予算額：196,796,000円】 【決算額：160,039,904円】									
		訪日外国人旅行者に対する受入環境整備や地域の伝統文化の継承、市民団体等の主催イベントへの支援、公式キャラクターによるシティプロモーション、広域連携による誘客促進など、関空の対岸という地理的優位性と交通利便性の強みを活かしたエリアの魅力創出あるいは周辺地域への出発地あるいは中継地としての機能強化を図ることで、国内外からのさらなる誘客を促進し、観光関連産業の活性化に取り組む。									
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 市内の年間延べ宿泊者数									
		K P I ： 5年後に212万人／年									
			現状値（R元年）	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考 他の統計調査に 合わせて 暦年値に している
		目標値	189万人	106万人	161万人	200万人	206万人	212万人			
		実績値	189万人	51万人	93万人	189万人	174万人		単年度計		
		達成度	100%	48.1%	57.8%	94.5%	84.5%				
		K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
		誘客促進施策の結果として、市内の宿泊者数の増加が、観光消費による経済波及効果に直結し、観光関連産業の活性化を示す指標になると考えるため					観光庁の宿泊旅行統計調査データ等により推計値を算出				
		②目標事項： 市内の年間外国人延べ宿泊者数									
		K P I ： 5年後に152万人／年									
			現状値（R元年）	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考 他の統計調査に 合わせて 暦年値に している
		目標値	80万人	64万人	107万人	140万人	146万人	152万人			
		実績値	124万人	6万人	16万人	72万人	99万人		単年度計		
		達成度	155.0%	9.4%	15.0%	51.4%	67.8%				
		K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
		訪日外国人旅行者に対する受入環境整備等の施策の効果として、外国人宿泊者数の増加が、観光消費による経済波及効果に直結し、観光関連産業の活性化を示す指標になると考えるため					観光庁の宿泊旅行統計調査データ等により推計値を算出				
		③目標事項： 市内観光施設の利用者数									
		K P I ： 5年後に19.3万人／年									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	20.0万人	10.6万人	10.8万人	11.1万人	11.4万人	11.6万人			
		実績値	18.7万人	2.7万人	7.7万人	13.2万人	15.4万人		単年度計		
		達成度	93.50%	25.5%	71.3%	118.9%	135.1%				
		K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
		観光案内施設の利用者数の増加が、市域の観光に対する関心の高さやその活性化を示す指標になると考えるため					りんくうまち処・泉佐野まち処・泉佐野観光情報センターの利用者数の合計値 ※令和元年度実績値と令和3～7年度目標値が乖離している理由…令和2年度（令和3年3月末）で関空まち処を閉鎖したため				
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課 評価	アフターコロナ、円安の影響により、訪日外国人数は順調に増加している。年間延べ宿泊者数は昨年比減少したものの外国人宿泊者数は増加傾向でありコロナ禍前の賑わいを取り戻しつつある。令和6年度は市内に滞在していただくためのコンテンツ造成事業として映画祭を実施するなど、新たな取り組みを実施できた。また、レンタサイクルを活用したツアー造成など、新たな観光施策を導入し、持続可能な誘客促進に注力するなど、市内で一定に集客、効果を生み出すことができた。								
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】									
		関空の訪日外国人旅行者数によると、訪日外国人旅行者数はすでにコロナ禍前の数値と上回り、過去最多を更新している。円安の影響もあり、今後も訪日外国人は増加が見込まれる。本市のKPIにおいてもコロナ禍前を上回る数値結果を出せるように、関空の対岸という地理的優位性と交通利便性の強みを活かし、受入環境の整備と観光資源の磨き上げを図りながら、国内外からのさらなる誘客を目指す取り組みをしていく。また大阪・関西万博と連携した市内独自の事業展開により、更なる観光客誘致に努める。									
委員会意見	【評価等に対する意見】										
	委員会 評価										

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	まちの活性課
----------	-----	--------

基本目標	② 定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる									
基本的方向	観光による交流人口拡充									
具体的施策	②観光による交流人口の拡充									
事業名	「恋人の聖地」広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ事業									
事業概要	【最終予算額：71,581,000円】 【決算額：71,580,314円】									
	NPO法人地域活性化支援センター「恋人の聖地」プロジェクトに参画する14市町村の広域連携により、関係人口拡大を目指し、（１）ウェブ上に市町村共同の「仮想シティ」（バーチャルシティ）の開設、（２）恋人の聖地の魅力増進のためのプラットフォームの展開（３）恋人の聖地観光誘客の共同プロモーションを実施し、各地域に継続的な事業実施・自走に不可欠な中間支援組織の育成に寄与する。									

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 観光入込数									
		KPI： 5年後に3,200,000人									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	—	—	2,300,000人	2,500,000人	2,750,000人	3,000,000人	累計		
		実績値	—	—	3,380,912人	4,161,485人	4,496,707人				
		達成度	—	—	147.0%	166.5%	163.5%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		滞在エリア・定住エリアとして選出される市町村選考において、観光入込数は取り組み成果に相關する重要な指標となるため。					連携自治体における観光入込数の合計値により算出				
		②目標事項： 仮想市民登録者数									
		KPI： 5年後に4,900件									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	—	—	1,820人	2,380人	2,800人	4,200人	累計		
		実績値	—	—	1,917人	2,497人	2,873人				
		達成度	—	—	105.3%	104.9%	102.6%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
仮想市民登録者数は関係人口の創出を図る入口指標となり、また、継続的な事業実施により費用対効果を図ることができるアウトカム指標となるため。					プラットフォームサイトである「恋人の聖地CITY」において市民登録された合計値により算出						
③目標事項： 地方志向者の魅力度数											
KPI： 5年後に3%											
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考		
目標値	—	—	3%	3%	3%	3%	単年度計				
実績値	—	—	21%	7.0%	3.0%						
達成度	—	—	700.0%	232.0%	100.7%						
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
継続的調査により算出した魅力度指数は、関係人口の拡大等地域事業の活性化や問題の解決につながる直接的指標となるため。					プラットフォームサイトでのアンケート調査により算出						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	WEB上に「恋人の聖地」プロジェクトに加盟する14市町村共同の仮想シティ「恋人の聖地CITY」（バーチャルシティ）を事務局が引続き企画運営し、各市町村の観光や定住促進などの情報を共同仮想シティポータルサイトへ掲載させ、仮想シティへの訪問者や住民登録者等への情報発信が図られた。また、スマホを活用したスタンプラリーを実施し、各市町村のリアルなスポットを回遊するイベントも企画され、交流促進が図られた。そのほか、各市町村において恋人の聖地の共同プロモーションを実施し、関係人口拡大に向けた取組みが行われ、各KPIにおいて目標値の達成につながった。								
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】									
		連携する14市町村共同の仮想シティ「恋人の聖地CITY」を引続き活用し、連携する各市町村が積極的に周知をして呼び込み、各市町村の魅力を発信して関係人口の拡大を図っていく。また、各市町村において恋人の聖地の共同プロモーションが引続き実施されることから、引続き連携し関係人口の拡大に繋げていく。									
	委員会意見	【評価等に対する意見】									
委員会評価											

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	おもてなし課
----------	-----	--------

基本目標	② 定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる	
基本的方向	観光による交流人口拡充	
具体的施策	②観光による交流人口の拡充	
事業名	eスポーツMICEコンテンツ実証事業	
事業概要	【最終予算額：180,000,000円】 【決算額：147,953,395円】	
	「地域内外の人々の交流から、市域への人の流れを生み出し、持続可能な地域へ」という将来像を実現するため、広域交通体系が充実しているにも関わらず、通過都市となっている現状において、市域における人々の交流の増加・深化のための糸口となる新たな都市魅力の創造・発信が課題となっています。本事業は、この地域課題に対して、eスポーツを通じて人々に交流の機会を提供するほか、これを通じた人材育成等の取組みによって、交流の増加・深化を図り、上記の将来像に繋げるものです。	

計画（P）→実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 関係人口（単発の買い物、観光（観戦）以外で本市に関係した人数）									
		KPI： 3年後に1,000人／年									
		現状値（R元年）	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	—	—	30人	100人	100人	1,000人	単年度計		
		実績値	—	—	427人	1,064人	3,016人				
		達成度	—	—	1423.3%	1064.0%	3016.0%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		本事業は、人の交流に着目して事業を進めてきており、目指す将来像に繋げるためには関係人口の創出・深化が鍵です。そのため、この事業を通じた関係人口の増加数を把握することで事業目的に従った直接的な効果を計測できます。					市外から参加者を募集して実施する事業について、その事業規模（回数や会場サイズも考慮）から目標値を設定しました。				
		②目標事項： 交流人口（当該事業に関して、本市を訪問（単発の観戦を含む）した人数）									
		KPI： 3年後に600,000人／年									
		現状値（R元年）	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	—	—	2,000人	10,000人	10,000人	600,000人	単年度計		
		実績値	—	—	3,444人	19,671人	1,808,104人				
		達成度	—	—	172.2%	196.7%	18081.0%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
KPI①の関係人口は、交流人口の上位に位置し、交流人口の増加が関係人口の増加の端緒となることから、本事業の目的に沿った効果を計測できます。					これまで行われているeスポーツのイベントの観戦数等を参考に、KPI③の大会・イベントの開催数から積算しました。						
③目標事項： eスポーツ大会・イベントの開催数											
KPI： 3年後に50回／年											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値	—	—	5回	20回	20回	50回	単年度計				
実績値	—	—	10回	30回	60回						
達成度	—	—	200.0%	150.0%	300.0%						
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
本事業の実施にて、KPI②に掲げる交流人口を増加させるためには、新たなコンテンツの実施回数（eスポーツ大会・イベント）と相関関係があるため、その開催数で効果を計測することが出来ます。					月に1度以上の大会・イベントを開催するという目標を掲げました。						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	定量的なKPIは達成しましたが、事業として端緒についたばかりで、eスポーツを通じた人々の交流の定性的な関係の深化は、これからであると考えています。								
		A									
		【7年度における取り組みなど】									
		まずは、地域へ、eスポーツに対する認知や理解を高めることが肝要であると考えています。そのため、個人はもとより、地域に存在する種々の団体等へも施設利用を依頼しながら、イベント等の開催により、体験の機会を多く提供したいと考えています。また、万博という機会も活用し、MICEのコンテンツとするため、外国人を含む、市域外からの利用者・参加者の更なる増加も図ってまいりたいと考えています。									
改善（A）	委員会意見	【評価等に対する意見】									
		委員会評価									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課	まちの活性課								
基本目標		② 定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる									
基本的方向		観光による交流人口拡充									
具体的施策		②観光による交流人口の拡充									
事業名		観光アプリ等を活用した着地型商品普及のための地域活性化計画事業									
事業概要		【最終予算額：40,589,000円】 【決算額：40,588,995円】									
		観光アプリでの情報発信や観光情報サイトの作成及び運営や、市内を巡る観光商品の作成・販売により、国内外からの誘客を図る。									
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 地域における観光消費額									
		K P I ： 1年毎に13.8億円の増加									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	—	—	—	—	448.3億円	462.1億円			
		実績値	—	—	—	—	399.5億円		単年度計		交付金申請時の現状値＝R5年度434.5億円。 コロナ禍後のGoToキャンペーンによりR5宿泊者数は大幅に増加。
		達成度	—	—	—	—	89.1%				
		K P I 設定の根拠 観光アプリでの情報発信や市内を巡る観光商品の作成・販売により、観光消費額が増加すると考えられるため。					K P I 目標数値の積算根拠 観光庁の統計調査によると、宿泊者一人当たりの平均観光消費額は23千円。泉佐野市総合計画では、毎年宿泊者数が6万人増加を見込んでおり、これをKPIとして設定する。（23千円×6万人＝13.8億円）				
		②目標事項： 泉佐野市内の観光来訪者数									
		K P I ： 1年毎に2％程度(約22,400人ほど)の増加									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	—	—	—	—	1,142,857人	1,165,257人			
		実績値	—	—	—	—	1,160,366人		単年度計		※観光来訪者数は外国人は含まない。 交付金申請時の現状値＝R5年度1,120,457人。
		達成度	—	—	—	—	101.5%				
		K P I 設定の根拠 観光アプリでの情報発信や市内を巡る観光商品の作成・販売により、観光来訪者数が増加すると考えられるため。					K P I 目標数値の積算根拠 地方版総合戦略に基づき算出しているもので、2025年大阪関西万博等を考慮し、毎年2％程度の増加を見込む。				
		③目標事項： アプリ上での商品の販売売上額									
		K P I ： 1年毎に対前年度比125％の増加									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	—	—	—	—	90,000円	112,500円			
		実績値	—	—	—	—	99,000円		単年度計		
		達成度	—	—	—	—	110.0%				
		K P I 設定の根拠 観光アプリでの情報発信や市内を巡る観光商品の作成・販売により、観光商品の販売売上額が増加することが見込まれるため。					K P I 目標数値の積算根拠 観光アプリでの情報発信や市内を巡る観光商品の作成・販売により、商品の販売売上額が12.5％ずつ増加すると設定。				
		④目標事項： レンタサイクルの利用実績額									
		K P I ： 1年毎に対前年度比110％の増加									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	—	—	—	—	274,010円	301,411円			
		実績値	—	—	—	—	347,500円		単年度計		交付金申請時の現状値＝R5年度249,100円。
		達成度	—	—	—	—	126.8%				
		K P I 設定の根拠 観光アプリでの情報発信や市内を巡る観光商品の作成・販売により、レンタサイクルの利用が増加することが見込まれるため。					K P I 目標数値の積算根拠 観光アプリでの情報発信や市内を巡る観光商品の作成・販売により、利用者数が10％ずつ増加すると設定。				
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	日本政府観光局観光庁によると、2024年の訪日客数が3686万人と過去最多を更新したとのことだが、残念ながら市内宿泊者数は前年度を下回った。ただし、外国人宿泊者数は増加している。国内宿泊者数が減少した理由は、2023年はコロナ禍後のGoToキャンペーンがあったことから市内宿泊者数は大幅に増加していたが、2024年はキャンペーンが終了し、前年度より国内の宿泊者数が減少したものと考えられる。2025年4月より「大阪・関西万博」が開催されるため、国内外の観光来訪者の増加を期待したい。								
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】									
		2025年4月から、いよいよ「大阪・関西万博」が開幕。このビックイベントの開催によって、本市への宿泊者数などが伸びることに期待するとともに、これらの来客者に少しでも市内を滞在していただけるよう、前年に引き続き観光商品を提供していきたいと考えている。									
	委員会意見	【評価等に対する意見】									
委員会評価											

- A ： 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
B ： ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
C ： 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
D ： 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
E ： 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		おもてなし課							
基本目標	② 定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる										
基本的方向	観光による交流人口拡充										
具体的施策	③MICE誘致の推進										
事業名	地方版MICE誘致推進事業										
事業概要	【最終予算額：35,837,000円】 【決算額：32,801,065円】										
	国際空港の玄関都市という好立地を活用した地方版MICEの誘致に向け、課題等を抽出し、効果的なMICE誘致に取り組む。										
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 誘致活動に伴うMICE誘致成功件数									
		KPI： 年間3件									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	3件	3件	3件	3件	3件	単年度計	→	宿泊を伴う100人以上の規模	
		実績値	3件	0件	3件	1件	4件				
		達成度	100%	0.0%	100.0%	33.3%	133.3%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		市内でMICEが開催されることで、地域経済の活性化及び都市ブランドの確立につながるため。					R1年度誘致成功件数（3件）と同件数				
		②目標事項： MICE開催時における市内宿泊施設への延べ宿泊参加者数									
		KPI： 年間8,000人（3年度～5年度は新型コロナウイルスの影響により目標値減）									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	2,226人	6,000人	6,000人	7,000人	8,000人	8,000人	単年度計	↗	
		実績値	2,226人	159人	1,600人	1,713人	1,781人				
		達成度	100%	2.7%	26.7%	24.5%	22.3%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
MICE参加者に市内での宿泊を推進し、宿泊者が増加することで、地域経済の活性化につながるため。					年間延べ1万人のMICE参加者の誘致を目指し、うち8割（8,000人）の宿泊を目標値とする（3年度～5年度は新型コロナウイルスの影響により目標値減）						
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C） 改善（A） 委員会意見	【6年度評価】									
		担当課評価	宿泊参加者数のKPI数値上では、十分な成果が出た年度であったとは、言えない年度となった。この要因として、コロナ禍にてスタート時点で乖離が生じた分をカバーできていないことが挙げられる。一方で、令和7年度の大きな国際会議も決定されるなど、一定の成果があった。								
		B									
		【7年度における取り組みなど】 今年度は、2025年大阪・関西万博開催のインパクトを発信しながら、誘致活動に努める。									
【評価等に対する意見】											
委員会評価											

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	ふるさと創生課
----------	-----	---------

基本目標	② 定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる	
基本的方向	関係人口の創出・拡大	
具体的施策	④シティプロモーション活動の強化	
事業名	ふるさと応援寄附金事業	
事業概要	【最終予算額：9,350,443,000円】 【決算額：8,528,793,830円】	
	ふるさと納税制度の取り組みに基づき全国の寄附者と繋がりを図ることにより、地元特産品のPR、販売促進や観光誘致につなげることで、地元企業・地域の活性化をめざします。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： ふるさと応援寄附金寄附件数									
		KPI： 年間240,000件									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	—	240,000件	240,000件	240,000件	240,000件	240,000件	単年度計	→	
		実績値	—	894,138件	923,583件	1,174,878件	1,130,779件				
		達成度	—	372.6%	384.8%	489.5%	471.2%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		市外住民の寄附行為が対象であり、不安定な要素はあるが寄附件数の実績を根拠とする。					新制度のふるさと納税受入れ受入れ開始（令和2年7月）から令和2年12月末までの実績である120,000件の2倍を積算根拠とする。				
		②目標事項：									
		KPI：									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値									
		実績値									
		達成度									
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
③目標事項：											
KPI：											
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考		
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	KPI目標として設定した寄附件数については、熟成肉・お米に対する総務省告示改正の影響を受けたものの、目標比471.2%の1,130,779件となり、KPI目標を大幅に上回ることが出来た。また、寄附者の満足度向上、品質管理・配送管理等のさらなる強化に取り組んできたことで、リピーターも増加しており、昨年度に引き続き寄附者との良好な接点強化も図ることができている。								
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】									
		品質・配送管理等に関わる取り組みをさらに強化し、より一層寄附者の満足度を高め、全国の寄附者との良好な接点の強化ならびにファンの獲得に努めていきたい。また、Instagram、TikTokアカウントを新規で開設するなど、SNS等を活用したプロモーション施策を強化し、より効率的かつ効果的な運用を行うことで、本市ふるさと納税の認知度及びアクセス数のさらなる向上を図ってまいりたいと考えている。									
	委員会意見	【評価等に対する意見】									
委員会評価											

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		おもてなし課							
基本目標	② 定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる										
基本的方向	関係人口の創出・拡大										
具体的施策	④シティプロモーション活動の強化										
事業名	東京事務所運営事業										
事業概要	【最終予算額： 8,014,000円】 【決算額： 7,381,962円】										
	東京事務所の運営・調整（東京を拠点とした自治体間の交流促進、イベント開催等）。イベント内容としては、いずみさの特産品フェア（本市の特産品のPR、販売。日本遺産に登録された「日根荘」や関西国際空港のPR）や東京いずみさの会（会員同士のネットワークを形成し、交流を深める）を開催している。										
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 東京いずみさの会会員数									
		KPI： 5年後に189人									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	117人	141人	153人	165人	177人	189人	累計	↑	
		実績値	117人	147人	193人	445人	590人				
		達成度	100%	104.3%	126.1%	269.7%	333.3%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		会員数の増加により、東京での本市への認知度アップにつなげ、ひいては関係人口の増加につながるため。					毎年12人ずつ会員数が増加するように積算				
		②目標事項：									
		KPI：									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値									
		実績値									
		達成度									
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課 評価	特産品の販売や東京いずみさの会のパーティーについて、滞りなく実施することができた。また、KPIは目標値を超えたことから評価は「A」とした。								
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】 引き続きシティプロモーション活動を行い、関東圏の情報や事業活動を誘致していく。また活動に併せて東京いずみさの会の会員数も増やしていく。									
		委員会意見	【評価等に対する意見】								
委員会 評価											

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	こども家庭課																																
基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる																																	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実																																	
具体的施策	①安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり																																	
事業名	さのっ子ナビ（電子母子手帳）による子育て支援																																	
事業概要	【最終予算額：660,000円】 【決算額： 660,000円】																																	
	妊娠中の役立つ情報をはじめ、予防接種のスケジュール管理や健診記録など、妊娠から出産、子育てまでの支援を行う。																																	
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： さのっ子ナビ（電子母子手帳）の年間出生者数に対する登録者数の比率																																
		KPI： 5年後に70%																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値（R元年度）</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>指標の単年・累計の別</th> <th>指標の傾向</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>64%</td> <td>66%</td> <td>67%</td> <td>68%</td> <td>69%</td> <td>70%</td> <td rowspan="3">単年度計</td> <td rowspan="3"> </td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>64%</td> <td>60%</td> <td>54%</td> <td>52%</td> <td>53%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100.0%</td> <td>90.9%</td> <td>80.6%</td> <td>76.5%</td> <td>76.8%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	目標値	64%	66%	67%	68%	69%	70%	単年度計		実績値	64%	60%	54%	52%	53%		達成度	100.0%	90.9%	80.6%	76.5%	76.8%	
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考																								
		目標値	64%	66%	67%	68%	69%	70%	単年度計																									
		実績値	64%	60%	54%	52%	53%																											
		達成度	100.0%	90.9%	80.6%	76.5%	76.8%																											
		KPI設定の根拠	KPI目標数値の積算根拠																															
		登録することによって、妊娠中から情報を得たり、出産後はこどもの予防接種の管理などから、成長の記録などにも活用することにより、健康管理への関心度がわかる。	出生者数に対する登録者数の比率を年に1ポイント増加することを目標とした。																															
		②目標事項：																																
		KPI：																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値（R元年度）</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>指標の単年・累計の別</th> <th>指標の傾向</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	目標値									実績値							達成度						
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考																								
		目標値																																
		実績値																																
達成度																																		
KPI設定の根拠	KPI目標数値の積算根拠																																	
③目標事項：																																		
KPI：																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値（R元年度）</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>指標の単年・累計の別</th> <th>指標の傾向</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	目標値									実績値							達成度								
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考																										
目標値																																		
実績値																																		
達成度																																		
KPI設定の根拠	KPI目標数値の積算根拠																																	
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】																																
		担当課 評価	母子健康手帳の電子管理版として保護者が健診結果や予防接種の管理ができるようH28.10月から導入されました。出生届、4か月児健康診査、BCG予防接種実施の時に案内チラシを渡し、利用の推進を行っています。 しかし、出生届時は父親やその他家族が来庁されることも多く、いろいろな手続きの書類を持っているため、また、健診時は袋に入れたまま持ち帰るため、届や健診後にチラシの内容をゆっくり確認することも少なく達成度が低い状況にあります。R7.3末時点では3109人登録、うちR6年度の新規登録者が326人、出生数が610人、登録者数の比率は約53%です。登録者数の比率について、令和5年度までは下落傾向でしたが、令和6年度は僅かながら上昇に転じております。予防接種時期、離乳食の情報やトピックスの配信など、登録のメリットをその都度伝え、育児支援アプリとして、より多くの人に利用していただきたいと考えています。																															
		C																																
		改善（A）	【7年度における取り組みなど】 より多くの人が活用し支援の1つになればと思います。様々な年齢の方に関心を持っていただくために、出生時から利用することのメリットを伝えるとともに乳児全戸訪問時や4か月児健診時に再度説明し普及に努めていきたいと思ひます。																															
		委員会意見	【評価等に対する意見】																															
	委員会 評価																																	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		地域共生推進課							
基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる										
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実										
具体的施策	①安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり										
事業名	地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）										
事業概要	【最終予算額：12,007,000円】 【決算額：12,007,000円】										
	地域において子育て世帯が孤立することなく、子育てに関する相談や親子の仲間づくりを目的とした子育てサロン活動（地区福祉委員会主催）の支援を行う。										
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 子育てサロン実施箇所									
		KPI： 5年後に14か所									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	11か所	11か所	11か所	12か所	13か所	14か所	単年度計	↑	
		実績値	11か所	10か所	9か所	10か所	10か所				
		達成度	100%	90.9%	81.8%	83.3%	76.9%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		この数値の把握により、地域での子育て世帯への支援体制の進捗状況がわかる。					市内14地区全ての福祉委員会において、子育てサロンを設置することを目標とする。				
		②目標事項： 子育てサロン開催回数									
		KPI： 5年後に340回／年									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	308回	310回	310回	320回	330回	340回	単年度計	↑	
		実績値	308回	60回	158回	198回	193回				
		達成度	100%	19.4%	51.0%	61.9%	58.5%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
この数値の把握により、地域での子育て世帯への支援活動の進捗状況がわかる。					令和元年度の実績をベースに子育てサロンの実施箇所数の目標値に沿って、令和5年度から毎年10回ずつ子育てサロン開催回数を増加することを目標とする。						
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	市内14地区中、昨年と同様の10地区での開催に留まっており、横ばいの状態。開催目標値は昨年度を若干数下回っている。								
		C									
令和6年度	改善（A）	【7年度における取り組みなど】									
		町会・自治体には加入していない世帯が増加する中で、子育て世代にサロンの情報が行き渡るよう、これまでとおりの情報発信だけでなく、世代に合った新しい情報発信について検討しつつ、未実施地域の新規の活動を促す。									
令和6年度	委員会意見	【評価等に対する意見】									
		委員会評価									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	子育て支援課
基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	①安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり	
事業名	幼児教育・保育	
事業概要	【最終予算額：3,511,418,000円】 【決算額：3,446,812,843円】	
	教育または保育を必要とする児童に対し、質の高い教育・保育を行い、待機児童数ゼロを堅持する。	

計画（P）↓実施（D）

目標事項・進捗状況

①目標事項：待機児童数

KPI：毎年待機児童数0を堅持

現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
目標値	0人	0人	0人	0人	0人	0人	単年度計	→
実績値	0人	0人	0人	0人	0人			
達成度	100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			

KPI設定の根拠

「泉佐野子ども未来総合計画」（令和2～6年度）に基づき、幼児教育・保育の「量的確保」（待機児童の解消に向けた保育の受け皿の確保等）及び「質の向上」（職員の配置及び処遇改善）を行い、子育て世帯がどこでも必要な時に利用できる子育てしやすい環境整備の指標となります。

KPI目標数値の積算根拠

待機児童数0を堅持

②目標事項：

KPI：

現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
目標値								
実績値								
達成度								

KPI設定の根拠

KPI目標数値の積算根拠

③目標事項：

KPI：

現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
目標値								
実績値								
達成度								

KPI設定の根拠

KPI目標数値の積算根拠

令和6年度

評価（C）

【6年度評価】

担当課
評価

B

令和元年10月から幼児教育・保育の無償化（3～5歳児）が開始されたことと同時に、市単独事業として給食費の無償化を開始している。また、上記無償化に伴って私立幼稚園就園奨励費補助金、助成金が廃止されたことにより、教育費の負担が増加する所得階層の世帯には、負担軽減補助金を支給している。これに加え、令和5年4月から保育所・認定こども園等に通う0～2歳児の第2子保育料を市単独で無償化している。保育に欠ける保護者からは、申し込みにより、入所判定会議を経て入所児童を決定し、保育料の決定、徴収を行い、保育を実施する。

（令和6年度実績）待機児童数0件

（令和5年度実績）待機児童数0件

（令和4年度実績）待機児童数0件

（令和3年度実績）待機児童数0件

改善（A）

【7年度における取り組みなど】

引き続き、待機児童数ゼロを堅持する。

委員会意見

【評価等に対する意見】

委員会
評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	子育て支援課
基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	①安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり	
事業名	地域における子育て支援サービス	
事業概要	【最終予算額：15,516,000円】 【決算額：14,332,462円】 地域子育て支援拠点事業（地域子育て支援センター）やファミリーサポートセンター事業など、在宅で保育を行う家庭を含むすべての子育て家庭に対して、利用者のニーズを踏まえながら必要な支援を行う。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 地域子育て支援拠点事業実施回数									
		K P I ： 5年後に524回									
		現状値（R元年度）		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	398回	398回	398回	398回	524回	524回			
		実績値	398回	446回	519回	500回	630回		単年度計	→	
		達成度	100%	112%	130%	126%	120%				
		K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
		「泉佐野子ども未来総合計画」（令和2～6年度）に基づき、地域子育て支援拠点事業を実施し、乳幼児及び保護者の相互交流を行い、子育てについての相談、情報提供、助言等を行い、子育て支援の充実度を図る指標となります。					左記計画の量の見込みでは、提供体制は十分確保となっているため、元年度実績を堅持するとともに、令和6年度より地域子育て拠点が1ヶ所増加となり、実績値を上乗せした。				
		②目標事項： ファミリー・サポート・センター事業援助活動件数									
		K P I ： 5年後に1,710件									
		現状値（R元年度）		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	3,226件	3,236件	3,246件	3,256件	1,700件	1,860件			
		実績値	3,226件	1,047件	1,444件	1,609件	1,771件		単年度計	↗	
		達成度	100%	32%	44%	49%	104%				
		K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
		「泉佐野子ども未来総合計画」（令和2～6年度）に基づき、ファミリー・サポート・センター事業を実施し、活動件数により相互援助活動の実施件数がわかり、地域における子育てを支えあう体制を拡充することにより、保護者が仕事と育児が両立できる環境整備を図る指標となります。					コロナ禍以降、利用者が減少。急激な利用増が見込めないため、R7年度については、R6年度実績値の5%増を見込む。左記計画の量の見込みでは、提供体制は十分確保となっているが、更なる利用促進を目標としているため、前年度実績から援助活動件数増加を10件/年とした。				
		③目標事項：									
		K P I ：									
		現状値（R元年度）		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
		目標値									
		実績値									
		達成度									
		K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課 評価	「地域子育て支援拠点事業」について、地域住民と子育て家庭の交流・連携を図る講座や催し等を実施し、地域における子育て支援を推進する。各中学校区に地域子育て支援拠点を設置すべく、平成31年1月29日より1ヶ所、令和6年4月1日より1ヶ所開所し、更なる支援が可能となった。令和6年度は拠点が1ヶ所増えたこともあり、事業実施回数は目標値を上回った。								
	改善（A）	A									
			【7年度における取り組みなど】								
	委員会意見		「地域子育て支援拠点事業」については、市直営で2ヶ所、市内私立認定こども園1ヶ所に事業委託の合計3ヶ所で連携して事業を実施し、引き続き在宅の子育て家庭の利用促進を図り、地域における子育て支援を推進していく。 「ファミリー・サポート・センター事業」については、少子化の進行等の影響により、利用者数は大幅に減少したが、引き続き会員（利用会員）登録を勧奨するとともに、提供会員を確保し、地域子育て支援サービスの充実を図っていく。								
			【評価等に対する意見】								
	委員会意見		委員会 評価								

- A : 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B : ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C : 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D : 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E : 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	学校教育課
----------	-----	-------

基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	①安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり	
事業名	小学校通学支援事業（通学バスの運行（第一小学校・大木小学校））	
事業概要	【最終予算額：20,583,878円】 【決算額：18,920,998円】	
	立地的に支援が必要な地域又は山間部に立地の大木小学校について、マイクロバスを借り上げ、子どもたちが安心・安全に学べられるよう、通学の支援を行う。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 通学バス利用児童数									
		KPI： 令和2年度の通学バス利用児童数（99人）を維持									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	102人	99人	99人	99人	99人	99人	単年度計	→	
		実績値	102人	107人	108人	103人	104人				
		達成度	100%	108.1%	109.1%	104.0%	105.1%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		この数値の把握により、児童及び保護者が安心安全に通学できる手段の一つとして、通学バスの利用を望んでいるのかの指標となると考えるため。									
		令和2年度の通学バス利用児童数（第一小学校（62名）＋大木小学校（37名））を規準に目標値を設定									
		②目標事項：									
		KPI：									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値							単年度計		
		実績値									
		達成度									
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		③目標事項：									
		KPI：									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課 評価	通学距離が長いので、公共交通機関を利用し通学していた児童に対し、中型バスを借上げ支援を行った。								
		A									
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】									
		令和6年度に引き続き中型バスを借上げ、立地的に支援が必要な地域又は山間部に立地の大木小学校について支援を行う。									
委員会意見	【評価等に対する意見】										
	委員会 評価										

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	②児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	ICT活用教育推進事業	
事業概要	【最終予算額：62,493,000円】 【決算額：60,585,906円】 市内小中学校にPC端末等の環境の整備を行うとともに、教職員がICT機器の特性を理解し、授業において効果的に活用することができる環境をつくることで、子どもたちがよくわかる授業づくりと学力の定着・向上をめざす。	

計画（P）
↓
実施（D）

目標事項・進捗状況	①目標事項： 授業におけるPC端末の月平均利用回数										
	K P I : 5年後に、平均20回以上／月										
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考	
	目標値	-	12回	14回	16回	18回	20回	単年度計			
	実績値	-	14.2回	14.9回	15.4回	16.2回					
	達成度	-	118.3%	106.4%	96.3%	90.0%					
	K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠					
	校内通信ネットワーク環境と1人1台端末の利用状況を把握することで、市内の小中学校におけるICT活用の推進、及び、児童・生徒がわかる授業づくりと学力の定着・向上を図っているかの指標になると考えるため。					令和元年度、教員のICT活用指導力の実態調査における、項目「学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能を児童生徒が身につけることができるよう指導できる」64%、を規準に設定した値					
	②目標事項：										
	K P I :										
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考	
	目標値										
	実績値										
	達成度										
	K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠					
	③目標事項：										
	K P I :										
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考	
	目標値										
	実績値										
	達成度										
	K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠					
評価（C）	【6年度評価】										
	担当課 評価	令和3年度から、中学校においてプログラミング教育が必修となったことから、国の事業も活用し、教材の提供や教職員への研修を実施した。									
	B	また、1人1台ICT端末と校内通信ネットワーク環境の整備とともに、教職員のICT端末の活用能力の向上や情報モラルやデジタル・シチズンシップ教育、プログラミング教育・メディアリテラシーの推進を図り、児童生徒の学力、情報活用能力の向上のための取り組みができた。									
		【7年度における取り組みなど】									
		ICT端末の活用能力の向上や情報モラル教育やデジタル・シチズンシップ教育等の推進を図るため、教職員の連絡会や研修を通じて実践事例を積み上げ、各学校の取り組みの交流を進めていく。									
		ICT関連企業等の教職員向け研修や児童生徒向け及び保護者対象のプログラムを活用し、ICT端末の効果的な活用方法を探る。									
	改善（A）	【評価等に対する意見】									
	委員会 評価										
	委員会意見										

令和6年度

- A : 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B : ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C : 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D : 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E : 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		学校教育課							
基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる										
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実										
具体的施策	②児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進										
事業名	放課後児童対策事業										
事業概要	【最終予算額：150,336,000円】 【決算額：150,335,802円】										
	保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に、遊びや生活の場を提供する。また、健全育成につながる子どもたちが楽しめる学習支援プログラムを実施する。										
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 基準日（5月1日）における留守家庭児童会入会者数									
		KPI： 令和2年度の留守家庭児童会入会者数（1192人）まで増加させる									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	1,132人	976人	1,030人	1,084人	1,138人	1,192人	単年度計	↑	
		実績値	1,132人	1,062人	1,088人	1,205人	1,319人				
		達成度	100%	108.8%	105.6%	111.2%	115.9%				
		KPI設定の根拠			KPI目標数値の積算根拠						
		この数値の把握により、保護者が安心して仕事と子育てが両立できるかを示す指標になると考えるため。			令和3年度留守家庭児童会入会者数予測 1192人（R2.5.1）－（987人（R3.1.1）－771人（R2.1.1））＝976人						
		②目標事項：									
		KPI：									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値									
		実績値									
		達成度									
		KPI設定の根拠			KPI目標数値の積算根拠						
		③目標事項：									
		KPI：									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠			KPI目標数値の積算根拠								
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課 評価	保護者就労等で昼間家庭にいない小学校に就学している児童（5月1日基準日時点登録児童数1,319人）に対し、市内13小学校すべての小学校で遊びや生活の場を提供し、感染症に注意しながら、安全な児童の健全育成を図ることができた。また待機児童数0名を年間通して達成する事が出来た。アンケート結果についても400名程度の回答で全体満足度95%を達成する事が出来た。								
		A									
令和6年度	改善（A）	【7年度における取り組みなど】 共働き家庭やひとり親家庭の増加など、子どもを取り巻く環境の変化から、放課後における児童の安全な居場所づくり、そして高まる子どもたちの安全な居場所の確保及び留守家庭児童会の施設増設改築等整備を進めていく。また、受け入れ体制の臨機応変に対応を充実さを意識し運営を行っていく。									
		【評価等に対する意見】									
		委員会 評価									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	②児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	泉佐野市の未来を創る教育事業	
事業概要	【最終予算額：2,908,000円】 【決算額：2,902,401円】 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、重点支援小学校への支援策として「学力向上アドバイザー」を配置するなど、市域全体の学力向上を図る。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 全国学力・学習状況調査（小学校 算数）平均正答率の差									
		K P I ： 5年後に全国平均正答率との差が1.5									
		現状値（R元年度）		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	3.1	2.9	2.7	2.5	2.0	1.5			
		実績値	1.6	2.2	2.2	3.5	3.4		単年度計		第5次泉佐野市総合計画 R10全国平均正答率との差が0
		達成度	193.75%	131.81%	122.72%	71.42%	58.82%				
		K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
		全国学力・学習状況調査（小学校 算数）の結果において、全国平均に近づくことにより、児童の算数の学力向上が図られているかが分かる指標となるため。					【参考】R1全国66.6、市65（差1.6） 総計によりR5が2.5、R10が0の差になる設定 R5以降は均等割により年0.5ずつ差を詰める R3、R4は年0.2ずつ差を詰める				
		②目標事項： 全国学力・学習状況調査（小学校 国語）平均正答率の差									
		K P I ： 5年後に全国平均正答率との差が1.5									
		現状値（R元年度）		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	3.7	3.5	3.0	2.5	2.0	1.5			
		実績値	4.8	4.7	3.6	5.2	4.7		単年度計		第5次泉佐野市総合計画 R10全国平均正答率との差が0
		達成度	77.08%	74.46%	83.33%	48.07%	42.55%				
		K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
		全国学力・学習状況調査（小学校 国語）の結果において、全国平均に近づくことにより、児童の国語の学力向上が図られているかが分かる指標となるため。					【参考】R1全国63.8、市59（差4.8） 総計によりR5が2.5、R10が0の差になる設定 R5以降は均等割により年0.5ずつ差を詰める R3、R4も年0.5ずつ差を詰める				
		③目標事項：									
		K P I ：									
現状値（R元年度）		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考		
目標値											
実績値											
達成度											
K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課 評価	月に一度の学力向上担当者会において、情報共有の時間を設定し、好事例の発信、共有を進めた。さらに各校において取り組みが進むよう、学力向上アドバイザーと学力支援コーディネーターの派遣を積極的に行い、教職員の指導力を向上を図った。また、他の事業で推進している「放課後学習」や「算数サポート」の事業も活用し、市域全小中学校の児童・生徒の学力向上へのアプローチを行った。								
		C									
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】 SE事業のモデル校を中心に、取り組みの様子と過程を市域に積極的に発信していく。また、各モデル校の学校公開時により多くの教職員が積極的に参加できるような手立てを講じたり、学力向上アドバイザー・学力支援コーディネーター・ICT教育推進アドバイザーの派遣を積極的に行ったりしていく。 他の事業で推進している「放課後学習」や「算数サポート」の事業も並行して進め、市域全小中学校の児童生徒の学力向上につなげていく。									
	委員会意見	【評価等に対する意見】									
委員会 評価											

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	学校教育課
基 本 目 標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	②児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事 業 名	家庭への支援事業（スクールカウンセラー等による相談）	
事 業 概 要	【最終予算額：43,299,000円】 【決算額：37,139,335円】 いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期解決に向けた体制の強化を図るため、スクールカウンセラーを教育支援センター「さわやかルーム」「シャイン」に1名ずつ、スクールソーシャルワーカーを各中学校区に1名配置する。	

計画（P）↓実施（D）

目標事項・進捗状況

①目標事項：不登校児童生徒の内、学校内外で相談・指導等を受けていない児童・生徒の割合									
K P I：不登校児童生徒の内、学校内外で相談・指導等を受けていない児童・生徒の割合30%を下回らせる									
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
目標値			38.3%	36.0%	33.0%	30.0%	単年度計		
実績値			45.9%	32.9%	36.3%				
達成度			83%	109.4%	90.9%				
K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
令和4年度、本市の小中学生の不登校児童・生徒の内、学校内外で相談・指導等を受けていない児童・生徒の割合は45.9%、全国では38.3%である。本市の状況は全国に比べて高い値となっている。全国・府共にこの割合の低下を目標として取り組んでおり、本市においても同様である。そのため、本事業を進め、令和7年度に30%を下回れるように目標を設定する。					令和4年度、不登校児童生徒の内、学校内外で相談・指導等を受けていない児童・生徒の割合 本市：45.9% 大阪府：49.5% 全国：38.3% 毎年、3%ずつ減少させる。				
②目標事項：									
K P I：									
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
目標値							単年度計		
実績値									
達成度									
K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
③目標事項：									
K P I：									
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
目標値							単年度計		
実績値									
達成度									
K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				

令和6年度

評価（C）	【6年度評価】	
	担当課評価	令和6年度の不登校児童生徒の内、学校内外で相談・指導等を受けていない児童・生徒の割合は36.3%。昨年度よりも増加しており、目標値に達していないが、R5年度の全国の割合は38.9%となっており、本市の状況が全国よりも低い値となっている。また、R4年度と比べて約10%減少している。本事業の取り組みの成果と考えている。
	C	
改善（A）	【7年度における取り組みなど】	増員したスクールカウンセラー、そしてスクールソーシャルワーカーを効果的に活用し、個別のケースの対応だけでなく、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期解決に向けた体制の強化を図っていくとともに、現在、不登校状態の児童・生徒やその家庭についても個別に支援していく。また、増員した家庭の教育機能総合支援員の家庭訪問等の個別の関わりや、子ども家庭アドバイザーによる学校教育課主催の講演や個別相談会、学校からの依頼を受けた講演や個別相談会など、アウトリーチ型の支援で、学校への登校や社会的自立に向けて支援する。また、各校の担当者に向けた連絡会や学習会を定期的に実施していく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	生涯学習課																														
基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる																															
基本的方向	生涯学習の推進																															
具体的施策	②児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進																															
事業名	地域の情報拠点としての図書館機能の充実																															
事業概要	【最終予算額：163,044,000円】 【決算額：162,931,060円】 様々なイベントを企画し魅力ある図書館運営に努めていくと同時に、図書館本来の目的として、地域住民に求められる資料の充実と資料を必要とする人に的確に提供できるように努めていきます。																															
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 図書館蔵書冊数 KPI： 5年後に500,000冊 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値（R元年度）</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>指標の単年・累計の別</th> <th>指標の傾向</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値 473,000冊</td> <td>482,000冊</td> <td>486,500冊</td> <td>491,000冊</td> <td>495,500冊</td> <td>500,000冊</td> <td rowspan="3">単年度計</td> <td rowspan="3">↗</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>実績値 472,219冊</td> <td>479,148冊</td> <td>488,345冊</td> <td>497,264冊</td> <td>505,160冊</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度 99.8%</td> <td>99.4%</td> <td>100.4%</td> <td>101.3%</td> <td>101.9%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> KPI設定の根拠 この数値の把握により、地域の情報拠点として、図書館が提供可能で、かつ、市民が求める資料・情報の収集が進んでいるか、図書館機能の充実に努めているかの指標となります。 KPI目標数値の積算根拠 令和元年度の実績値から起算した毎年4,500冊ずつ増加を目標として設定した結果の値	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	目標値 473,000冊	482,000冊	486,500冊	491,000冊	495,500冊	500,000冊	単年度計	↗		実績値 472,219冊	479,148冊	488,345冊	497,264冊	505,160冊		達成度 99.8%	99.4%	100.4%	101.3%	101.9%	
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考																						
		目標値 473,000冊	482,000冊	486,500冊	491,000冊	495,500冊	500,000冊	単年度計	↗																							
		実績値 472,219冊	479,148冊	488,345冊	497,264冊	505,160冊																										
		達成度 99.8%	99.4%	100.4%	101.3%	101.9%																										
		②目標事項： 年間個人貸出点数 KPI： 5年後に353,300点 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値（R元年度）</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>指標の単年・累計の別</th> <th>指標の傾向</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値 347,000点</td> <td>326,400点</td> <td>333,000点</td> <td>339,600点</td> <td>346,400点</td> <td>353,300点</td> <td rowspan="3">単年度計</td> <td rowspan="3">↗</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>実績値 346,061点</td> <td>323,930点</td> <td>375,251点</td> <td>384,704点</td> <td>388,787点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度 99.7%</td> <td>99.2%</td> <td>112.7%</td> <td>113.3%</td> <td>112.2%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> KPI設定の根拠 この数値の把握により、地域の情報拠点として、市民への資料・情報の提供が進んでいるか、市民が読書などで知的欲求を満たしているのかの指標となります。 KPI目標数値の積算根拠 現在のコロナ禍での図書館利用の減少を考慮し、令和元年度の実績値より低い目標値から、毎年2%前後の増加を目標として設定した結果の値	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	目標値 347,000点	326,400点	333,000点	339,600点	346,400点	353,300点	単年度計	↗		実績値 346,061点	323,930点	375,251点	384,704点	388,787点		達成度 99.7%	99.2%	112.7%	113.3%	112.2%	
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考																						
		目標値 347,000点	326,400点	333,000点	339,600点	346,400点	353,300点	単年度計	↗																							
		実績値 346,061点	323,930点	375,251点	384,704点	388,787点																										
		達成度 99.7%	99.2%	112.7%	113.3%	112.2%																										
③目標事項： KPI： <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値（R元年度）</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>指標の単年・累計の別</th> <th>指標の傾向</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> KPI設定の根拠 KPI目標数値の積算根拠	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	目標値									実績値						達成度							
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考																								
目標値																																
実績値																																
達成度																																
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】 担当課 評価 A 泉佐野市「図書館を使った調べる学習コンクール」や「読書通帳」事業などで、小中学校で児童生徒の読書活動の推進に努めた。前年度と同様に市内ショッピングセンターでの「いすみさ図書館フェスタ」や「電子図書館体験会」などで身近に図書に触れ合える機会を設け、普段図書館に足を運ばない市民にも図書館のサービスを周知し、利用につながるよう努めた。その他、「予約資料受取ロッカー」を新たに「JR日根野駅」に開設し、新たな利用者の獲得に努めた他、毎年11月を「読書活動推進月間」に定め多くのイベントを実施した。中でも同月に「泉佐野市読書活動推進月間 特別企画」としてジャーナリストの池上彰を講師に市民講演会を開催したが、多くの市民に参加いただいた。																														
		【7年度における取り組みなど】 令和7年は電算システムの再構築を予定しており、利用者がより便利に利用しやすいように新しい機能を追加する計画で進めている。その他に、「泉佐野市図書館を使った調べる学習コンクール」をさらに泉佐野市に根付かせるべく市内小・中学校と連携して出前講座を実施し、多くの応募作品が集まるよう努める。昨年度開催してきた各イベントも継続して開催し、市民に次回を楽しみにしてもらえるよう努める。昨年度から新たに開催した「泉佐野市読書活動推進月間 特別企画 市民講演会」を今年度も開催し、「泉佐野市民の心と知識を豊かにする読書活動推進条例」にかかげている市民に読書の楽しさや図書館の便利さを伝えるべく努めていく。																														
		【評価等に対する意見】 委員会 評価 																														

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		学校教育課							
基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる										
基本的方向	学校教育の充実										
具体的施策	③国際交流の推進										
事業名	国際理解教育の充実（英語教育の充実、国際交流）										
事業概要	【最終予算額：14,681,000円】 【決算額：14,378,845円】										
	自国の歴史や文化・伝統に誇りを持ち、諸外国の異なる文化や習慣等について理解を深め、互いに違いを認め合い、共に生きていく力や自分の意思を表現できる基礎的な能力を育成するため、海外派遣や文化交流を推進する。										
計画（P）→実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 海外研修派遣人数									
		KPI： 5年間で80人									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	20人	-	20人	20人	20人	20人	単年度計	→	
		実績値	20人	0人	0人	20人	20人				
		達成度	100%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		この数値の把握により、英語レッスンや学校訪問、ホームステイなどを通して、外国の言葉と文化に触れ、人々とふれあう中で国際理解を深めているかの指標になると考えるため。					令和元年度の海外研修派遣人数を規準に目標値を設定				
		②目標事項： 小中学校における文化交流事業数									
		KPI： 5年間で90回									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	18回	18回	18回	18回	18回	18回	単年度計	→	
		実績値	18回	18回	18回	18回	18回				
		達成度	100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
この数値の把握により、市内小・中学校における国際理解・多文化共生教育の推進が図られているかの指標になると考えるため。					令和元年度の小中学校における文化交流事業数を規準に目標値を設定						
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	ICT端末を活用してALT等による外国の文化についての紹介や海外の中学生と交流、国際交流員による出前授業等は実施できた。								
		B									
		【7年度における取り組みなど】									
		市内の小中学校が、国際交流関係団体と連携しやすいように情報の提供などを行う。教職員への研修やヒアリング等を通じて多文化共生の取り組みの推進・啓発を行う。									
令和6年度	委員会意見	【評価等に対する意見】									
		委員会評価									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		人権推進課	
----------	--	-----	--	-------	--

基本目標		③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる					
基本的方向		男女共同参画社会づくりの推進					
具体的施策		④仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の啓発					
事業名		ワーク・ライフ・バランスの実現					
事業概要		【最終予算額：77,450円】 【決算額：68,000円】 結婚・出産・子育て・介護などに前向きなイメージを育めるよう、情報提供をはじめ関係機関と連携を図りながら多面的な支援を行う。					

計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： ワーク・ライフ・バランスの啓発事業実施回数									
		KPI： 5年間で30回									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	4回	6回	12回	18回	24回	30回	累計	→	累計
		実績値	6回	4回	9回	12回	22回				
		達成度	150%	66.7%	75.0%	66.7%	91.7%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		啓発事業のうちワーク・ライフ・バランスをテーマにした講座の開催比率を高めることにより、市民への啓発の取組み状況がわかる。					年間に実施する啓発講座の約50%。				
		②目標事項：									
		KPI：									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値									
		実績値									
		達成度									
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						

令和6年度	評価（C）	【6年度評価】	
		担当課評価	令和6年度開催の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に係るいずみさの女性センターでの講座は、①親子クラフト「樹脂粘土でつくる縁日フレーム」（R6.7.21開催）、②親子クッキング「親子で楽しくシンガポールライスをつくろう！」（R6.8.4）、③理想のワークライフバランスを実現するために～仕事も子育ても楽しむために～④親子クッキング「かわいい動物パン作り」（R7.2.16開催）の計4回。その他、「課題別講座」「利用促進講座」として開催した講座の中で、ワーク・ライフ・バランスの要素を取り込んだ講座が6回あった。
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】	
		ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現に向けて、男性・女性の誰もが充実した人生を送り、更には社会全体の共通認識と位置付けられるように啓発をしていきたい。そのためには、啓発講座の開催や、情報提供の機会を多く検討していきたい。いずみさの女性センターでは、ワーク・ライフ・バランスに特化した講座を含め、それ以外にも課題別講座として、資産形成や健康づくりをテーマとした講座が人気がある。令和7年度においても、男女問わず、多くの方が興味を持って参加できる講座内容を、検討していきたい。	
	委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	政策推進課
----------	-----	-------

基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実		
具体的施策	⑤出会い・結婚の支援		
事業名	泉佐野市結婚新生活支援事業		
事業概要	【最終予算額：18,000,000円】		
	【決算額：18,000,000円】		
	結婚の希望を叶えるために、新婚世代の住居費及び引越し費用を支援することにより、結婚に伴う経済的不安を軽減する。		

計画（P）
↓
実施（D）

目標事項・進捗状況	①目標事項： 結婚新生活支援事業補助金交付件数									
	KPI： 5年間で30件									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
	目標値	12件	26件	27件	28件	29件	30件	単年度計		
	実績値	12件	33件	43件	66件	45件				
	達成度	100%	127%	159%	236%	155%				
	KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
	事業の目的である新婚世帯への経済的不安の軽減の達成度について、補助金の交付件数により測る。					政府の動向や実績値から令和3年度の予算要求時の件数を基にし、毎年1件ずつの増加とする。				
	②目標事項：									
	KPI：									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
	目標値									
	実績値									
	達成度									
	KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
	③目標事項：									
	KPI：									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
	目標値									
	実績値									
達成度										
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠					
【6年度評価】										
令和6年度	評価（C）	担当課 評価 A	制度の周知が図られてきたことにより、令和5年度の補助金支給件数は目標値28件に対し、実績値が66件で上回ったが、令和6年度より、窓口受付からWeb申請に変更した結果、件数がやや減少した。令和7年度も引き続き、積極的な広報に努めていく。							
	改善（A）		【7年度における取り組みなど】 制度の周知はできており、一定の申請数が見込めている。今後も、公式ホームページやLINEでの広報、婚姻届提出時にチラシの配布を実施することで周知の徹底を図る。							
	委員会意見		【評価等に対する意見】							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	政策推進課
基本目標	③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	⑤出会い・結婚の支援	
事業名	婚活イベント等の共催・後援など（出会いの機会創出事業）	
事業概要	【最終予算額：4,965,000円】 【決算額：4,942,300円】 結婚を希望する若い世代を対象とした婚活等のイベント開催、または関係団体等が開催するイベントとの共催や後援を行い、出会いの場を提供する。	

計画（P）
↓
実施（D）

目標事項・進捗状況

①目標事項：婚活等イベント参加者の満足度

KPI：5年後に80%

	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
目標値	75%	80%	80%	80%	80%	80%	単年度計		
実績値	75%	77%	82%	86%	86%				
達成度	100%	96.3%	102.5%	107.5%	107.5%				

KPI設定の根拠

趣旨に沿った開催内容であったかを、参加者の満足度によって測る。

KPI目標数値の積算根拠

参加者のアンケートの満足度の平均値

②目標事項：マッチングアプリのお見合い件数

KPI：年間24件

	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
目標値	-	-	-	-	24件	24件	単年度計		
実績値	-	-	-	-	40件				
達成度	-	-	-	-	166.7%				

KPI設定の根拠

マッチング数により、アプリの活用状況や登録者の満足度が把握できる。

KPI目標数値の積算根拠

年間のお見合い件数（1か月2件として計算）

③目標事項：

KPI：

	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
目標値									
実績値									
達成度									

KPI設定の根拠

KPI目標数値の積算根拠

令和6年度

評価（C）

A

担当課評価

令和5年度は、マッチングアプリを活用した婚活支援に発展させるため、市独自の婚活ポータルサイトを構築し、従来のイベント実施や結婚新生活支援事業を一体的・効果的に推進した。令和6年度は、マッチングアプリに関しては、登録者数が100人を超え、さらなる登録者の確保に向けて、積極的な広報をしていく。婚活イベントは集客もあり、満足度も高いので、引き続き実施していく。

改善（A）

【7年度における取り組みなど】

婚活ポータルサイトを活用し、登録者に対して通年で結婚情報や婚活イベント情報、地域の魅力等を発信する。また、婚活ポータルサイトにおいては、登録者数の増加を目指し、幅広く周知していく。

委員会意見

【評価等に対する意見】

委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	道路公園課
基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	①交通ネットワークの整備	
事業名	コミュニティバス無料化事業	
事業概要	【最終予算額：60,464,000円】 【決算額：60,464,000円】 地域の生活拠点を運行するコミュニティバスの無料化を継続することで、地域の公共交通網による移動手段の維持・確保を図り、交通弱者が容易に移動でき、社会参加等を促進するとともに、通勤・通学等の経費減による転入促進を図ります。	

計画（P）↓実施（D）

目標事項・進捗状況

①目標事項：コミュニティバスの年間利用者数（人）

KPI：5年後に205,000人

	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
目標値	180,147人	183,000人	188,000人	200,000人	202,000人	205,000人	単年度計		
実績値	180,147人	150,281人	168,762人	176,469人	181,455人				
達成度	100%	82.1%	89.8%	88.2%	89.8%				

KPI設定の根拠

運賃無料のコミュニティバスの利用向上は、高齢者や子育て世代の安全な移動支援や、通勤・通学・通院経費の軽減による住みやすさの向上、定住・転入促進につながると考え設定の根拠とした。

KPI目標数値の積算根拠

高齢化の進捗を背景に、運賃無料の経済的な移動手段として、子育て世代等からの需要増も含む、毎年平均3%の増加を積算根拠とした。

②目標事項：観光周遊バスの年間利用者数（人）

KPI：5年後に10,000人

	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
目標値	7,627人	8,000人	8,500人	9,000人	9,500人	10,000人	単年度計		
実績値	7,627人	5,447人	6,579人	7,427人	7,506人				
達成度	100%	68.1%	77.4%	82.5%	79.0%				

KPI設定の根拠

運賃無料の観光周遊バスの利用向上は、国内外からの観光客の周遊性を高めることで、地域経済の拡大に運動すると考え設定の根拠とした。

KPI目標数値の積算根拠

日祝のみの運行であるも、運賃無料の継続化とともに、利便性・周遊性を高めるなどの利用促進を図り、毎年平均5%の利用増加を積算根拠とした。

③目標事項：

KPI：

	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
目標値									
実績値									
達成度									

KPI設定の根拠

KPI目標数値の積算根拠

令和6年度

評価（C）

改善（A）

委員会意見

【6年度評価】

担当課評価

C

コミュニティバスは、令和3年以降実績値が目標値を下回っているものの、令和5年度より4,986人増で、令和6年度は令和元年度の現状値を上回り、年々利用者は回復してきている。観光周遊バスについては、令和5年度からの利用者の増加は鈍化しているものの回復傾向にはあります。
また、新型コロナウイルスの影響により令和3年度に大幅に利用者が減少した時から各年度の利用者の増加は目標値を上回っているが、目標値を達成することはできていない。

【7年度における取り組みなど】

引き続き感染症等の予防を行うとともに、運行会社である南海ウイングバスと連携し、安全で安心して乗車していただけるよう運行に努めていきます。
また、7年度より新型車両を導入することにより利用者の増加が見込めます。

【評価等に対する意見】

委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	危機管理課
基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	②市民が地域防災の担い手となる環境の確保	
事業名	泉佐野市大防災訓練	
事業概要	【最終予算額：1,683,280円】 【決算額：1,539,950円】 11月第一日曜日の「市民防災の日」に市域全体で地域の自主防災組織を主体とした大防災訓練を実施する。	

計画（P）↓実施（D）

目標事項・進捗状況

①目標事項： 防災訓練参加人数									
K P I : 5年後に5,000人（700人の増加）									
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
目標値	4,300人	4,500人	4,600人	4,700人	4,800人	5,000人			累計
実績値	4,300人	5,615人	3,446人	3,734人	3,640人				
達成度	100%	125%	75%	79%	76%				
K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
防災訓練参加人数の増加から、地域を主体とした訓練の進展度を測ることができるため。※R3年度の実績数値は、コロナ禍を踏まえた訓練の実施が重要であったことから、参加型の防災訓練の参加人数ではなく、安否確認タオルの掲出数を実績値として計上。					例年の増加割合を踏まえて合理的な目標値を算出したもの。				
②目標事項：									
K P I :									
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
目標値									
実績値									
達成度									
K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
③目標事項：									
K P I :									
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・ 累計の別	指標の傾向	備考
目標値									
実績値									
達成度									
K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				

令和6年度	評価（C）	【6年度評価】	
		担当課 評価	自主防災組織は情報収集や伝達、地域の避難誘導など種々活動を同時に行うことが必要であり、市域全体で実施する大防災訓練を毎年繰り返し行うことで、実践的な活動が見込めるように育成されている。また、地域住民は訓練参加により、防災について正しい知識を着実に習得されてきている。令和6年度末現在で、自主防災組織は83町会中78町会で結成。 ※R3年度の実績数値は、コロナ禍を踏まえた訓練の実施が重要であったことから、参加型の防災訓練の参加人数ではなく、安否確認タオルの掲出数を実績値として計上。
	C		
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】	
		市民防災の日に大防災訓練を実施し防災意識の高揚を促す。また、大防災訓練に参加した自主防災組織への補助金を増額し防災訓練の機運を高め、活動の促進を図る。	
	委員会意見	【評価等に対する意見】	
委員会 評価			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		危機管理課							
基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する										
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり										
具体的施策	②市民が地域防災の担い手となる環境の確保										
事業名	地域防災の担い手の確保										
事業概要	【最終予算額：3,320,460円】 【決算額：3,008,238円】										
	災害等に関する正確な知識を取得し、地域における防災・減災リーダーの育成を図るため、防災士資格取得研修を実施する。										
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 防災士の資格取得人数（累計）									
		KPI： 5年後に486人									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	366人	406人	426人	446人	466人	486人	累計	↑	なし
		実績値	353人	484人	570人	644人	724人				
		達成度	96%	119%	134%	144%	155%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		防災士資格取得者数を、地域防災の担い手の育成状況を測る指標とする。					受講者が例年同水準にて推移していることから、毎年度20人増加する目標値を設定。				
		②目標事項：									
		KPI：									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値									
		実績値									
		達成度									
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		③目標事項：									
		KPI：									
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課 評価	本市の防災と危機管理に寄与することを目的とした、日本防災士機構が認証する防災士資格取得者を増やすことができた。市内在住の防災士を増やすことで、地域防災力の向上を期待することができる。・各年度末資格取得者数の推移は、R1：353人、R2：417人、R3：484人、R4：570人、R5：644人、R6：724人								
		A									
		【7年度における取り組みなど】									
令和6年度	改善（A）	引き続き、防災力を高める活動が期待される防災士の資格取得を積極的に促進する。また、市内在住の防災士育成のため、知識と技能習得のためのフォローアップ研修を実施する。									
		【評価等に対する意見】									
		委員会 評価									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	地域共生推進課・危機管理課
----------	-----	---------------

基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	②市民が地域防災の担い手となる環境の確保
事業名	地域の絆づくり登録制度
事業概要	【最終予算額：13,155,000円】 【決算額：12,526,002円】 災害時の避難に不安がある方（避難行動要支援者）に、あらかじめ市に登録していただき、地域の支援団体（自主防災組織）や関係機関（警察・消防・社会福祉協議会〈左記3機関とは協定締結済〉）とその情報を共有し、平常時の見守りや災害が発生したときの避難支援活動、安否確認に役立てる。 対象者の抽出、登録届出書兼同意書の送付及び同意者の登録を地域共生推進課にて行い、登録情報の提供に関わる協定の締結と各機関への避難行動要支援者名簿の提供事務を危機管理課が行う。また、発災時には迅速かつ適切な避難支援活動を実施する必要があることから、個別計画の作成を支援団体は名簿をもとに社会福祉協議会と連携して作成する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 避難行動要支援対象者の同意・不同意確認者数割合									
		KPI： 5年後に72.0%									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	67.7%	68.0%	69.0%	70.0%	71.0%	72.0%	累計	→	なし
		実績値	67.7%	75.3%	75.8%	79.6%	78.7%				
		達成度	100.0%	110.7%	109.9%	113.7%	110.8%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		市・社協及び自主防災組織が連携し、当事業の更なる周知を図り、入れ替わりの激しい避難行動要支援者となり得る者の意思確認をいかに進めていけるかの指標となる。					過去の増加率が横ばいのため、合理的に算出した結果				
		②目標事項： 自主防災組織との協定締結率									
		KPI： 5年後に100%									
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考		
目標値	54.5%	70.1%	77.9%	85.7%	93.5%	100%	累計	↗	なし		
実績値	54.5%	62.3%	68.8%	67.9%	69.2%						
達成度	100.0%	88.9%	88.3%	79.2%	74.0%						
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
地域における災害時の避難支援活動、安否確認に役立てる名簿の提供状況を把握することにより取り組みの進捗を確認する。					令和3年度から令和7年度までの5力年で市内自主防災組織との協定締結を完了することを目標として設定した値						
③目標事項：											
KPI：											
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考		
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	要支援者名簿を作成し、地域の支援団体78組織中、54組織と協定を締結し名簿の提供を行った。								
		C	・各年度契約締結数は、H27：16団体、H28：9団体、H29：9団体、H30：2団体、H31：6団体、R2：0団体、R3：6団体、R4：5団体、R5：0団体、R6：1団体 ・各年度末同意登録者数の推移は、H28：2347人、H29：2464人、H30：2762人、H31：2697人、R2：2989人、R3：3124人、R4：3115人、R5：3308人、R6：3147人								
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】	あらゆる機会を活用して制度説明を行うなど広く理解を求め、登録者数及び地域の支援団体の増加を図る。								
	委員会意見	【評価等に対する意見】									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	学校教育課
----------	-----	-------

基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	②市民が地域防災の担い手となる環境の確保
事業名	防災教育の充実（被災地訪問、ジュニア防災検定）
事業概要	【最終予算額：1,475,000円】 【決算額：1,459,080円】
	児童・生徒の防災意識の向上を図るため、「被災地訪問事業」の実施や、小学4年生児童対象に「ジュニア防災検定」に参加する。

計画（P）→実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 被災地訪問派遣人数									
		KPI： 5年間で120人									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	35人	-	30人	60人	90人	120人	累計	→	
		実績値	35人	0人	0人	0人	0人				
		達成度	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		この数値の把握により、被災地の見学や被災当時の話を聞くことなどを通して、防災意識の向上をめざした防災教育の充実が図られているかの指標になると考えるため。					令和元年度の被災地訪問派遣人数を規準に設定した値 今後、被災地とのリモート交流の実施も検討				
		②目標事項： ジュニア防災検定受検者数									
		KPI： 5年間で3700人									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	806人	840人	1,590人	2,300人	3,000人	3,700人	累計	↗	
		実績値	806人	840人	1,600人	2,315人	3,087人				
		達成度	100%	100.0%	100.6%	100.7%	102.9%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
この数値の把握により、子どもたちが日常から防災と減災に関心をもち、意識を高め、考え判断し行動できる防災力を高めているかの指標になると考えるため。					令和元年度のジュニア防災検定受検者数と、令和3年以降の小学4年生の見込児童数を規準に設定した値						
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	被災地訪問事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業内容を変更し、被災された方による出前授業を実施した。「筆記試験」「家族防災会議レポート」「防災自由研究」から構成されるジュニア防災検定の、小学4年生の全児童の参加により、子どもたちの「防災力」を養うとともに、家族で防災に取り組む機会を提供することができた。								
		B									
		改善（A）	【7年度における取り組みなど】 市内小中学校の防災教育は命を守ることをベースとしながら、災害発生の理屈を知ること、社会と地域の実態を知ること、備え方を学ぶこと、災害発生時の対処の仕方等を学ぶこと、それらを実践に移すことを目指して、各校にて発達段階に応じて学習を位置付けて取り組みを進める。また、ジュニア防災検定の継続的な取り組みや、被災された方の出前授業などにより、防災教育のさらなる充実を図る。								
		委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価										

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		環境衛生課	
基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する				
基本的方向	都市基盤の再構築				
具体的施策	③エネルギーの地産地消				
事業名	泉佐野電力及び泉佐野ガスの運営				
事業概要	【最終予算額：－】 【決算額：－】				
	一般財団法人泉佐野電力、及びその子会社である一般財団法人泉佐野ガスの運営を通して、公共施設等に電力及びガスを供給。				

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 調達電力に対する再生可能エネルギーの割合									
		KPI： 5年後に50%									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	22%	32%	37%	42%	47%	50%	累計	↑	
		実績値	22%	20%	16%	30%	48%				
		達成度	100.0%	62.5%	43.2%	71.4%	102.1%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		全調達電力に関する再生可能エネルギーの割合。温室効果ガスの排出削減に関する取り組みの進捗状況を示す指標となります。 令和元年度実績（経営状況報告書より） 全調達電力：15,971.212kWh 再生可能エネルギー：3,624,548kWh					令和元年度実績を基準に、毎年度5%の増加、最終的に50%達成を目標とする。				
		②目標事項：									
		KPI：									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値									
		実績値									
		達成度									
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	令和6年度は、公共施設において高圧49施設、低圧255施設に、また民間施設では高圧12施設、低圧47施設で合計363施設に対し、電気の供給を行った。								
		B									
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】 引き続き、再生可能エネルギーの導入検討を行っていく。									
委員会意見	【評価等に対する意見】										
	委員会評価										

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	健康推進課
----------	-----	-------

基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	④高齢者の健康づくり	
事業名	健康マイレージ事業	
事業概要	【最終予算額：29,460,000円】 【決算額：18,521,210円】 健康教室への参加や特定健診・がん検診等の受診など、健康づくりへの取り組みに対し、「さの健康ポイント」の付与を行い、健康づくりへの積極的な参加促進を図ることを目標にしている。	

計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 健康マイレージの参加者数									
		KPI： 年5%の参加者の増加を目標とする									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	208人	294人	309人	324人	340人	357人	単年度計		
		実績値	352人	429人	597人	2885人	6661人				
		達成度	169.2%	145.9%	193.2%	890.4%	1959.1%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		健康マイレージの交換者数により、健康教室への参加や特定健診・がん検診等の受診率の向上など、健康づくりへの関心度がわかる。					R元年度に総合計画の目標を達成したため、改めて目標値を見直し、R2年度に下がった見込数値（280人）から年間5%（H26～R元年度の対前年比平均）の参加者数の増を目標とした。				
		②目標事項：									
		KPI：									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値									
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課	令和6年1月より健康マイレージ事業がデジタル化し「さのほっ歩」を開始した。令和6年度3月末時点で紙のマイレージ事業でさのほに交換した人は514人、「さのほっ歩」の登録者数は、6,147人と大幅に増加した。デジタルの登録者の年齢別では20歳代が6%、30歳代が10%、40歳代が17%、50歳代が21%、60歳以上が47%と60歳以上が約半数であった。「さのほっ歩」の登録が増加した要因は、アプリ内で貯めた「さの健康ポイント」を地域通貫のさのほに交換できることやアプリの設定方法がわからない人を対象に、説明会や個別サポート会を全8回実施したり、市役所窓口でも職員がサポートしたりとアプリに不慣れな層にも対応することで幅広い層にも普及していった。令和6年4月からは、健康診断やがん検診を市内の医療機関で受けると「さの健康ポイント」が500ポイント溜まるだけでなく、会社の健康診断や人間ドックなどの市外の医療機関で受けた健（検）診結果も画像を送付することでポイントが溜まるシステムも追加し、市民が手軽に健康づくり行動に取組ができるようになった。								
		A									
		【7年度における取り組みなど】									
		健康マイレージ事業の登録者は60歳以上が半数近くを占めていることから、30歳代～50歳代の層への働きかけが必要である。早期から健康づくりを意識してもらうとともに健（検）診の受診率アップを図るために、成人式の参加者や乳幼児健診・こども園・学校の保護者向けに健康マイレージ事業の周知チラシと健診受診の呼びかけを行うこととした。また今年度もアプリの新規登録者に対してサポート会を実施するとともに6月に歩数連携のアプリがバージョンアップすることからすでに登録されている人へのサポート会も行うなど継続して健康づくりに取組めるように支援を行う。									
委員会意見	委員会	【評価等に対する意見】									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	地域共生推進課
----------	-----	---------

基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	④高齢者の健康づくり
事業名	介護予防事業
事業概要	【最終予算額：42,531,000 円】 【決算額：37,528,214円】 要介護状態への予防のための運動機能向上プログラムを実施するロコトレ教室等や、カラオケ機器を利用した介護予防プログラムの実践にて、介護予防・認知症予防・健康づくりに取り組むとともに、地域住民の生きがいの場を広げ、コミュニティの創出と活性化を図る音楽介護予防教室（泉佐野元気塾）により、高齢者が自立した日常生活を営むことを図る。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 音楽介護予防教室参加者数										
		K P I : 5年後に10,400人										
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	10,412人	9,350人	9,600人	10,000人	10,200人	10,400人	単年度計	↑		
		実績値	10,412人	4,303人	9,580人	12,357人	15,081人					
		達成度	100%	46.0%	99.8%	123.6%	147.9%					
		K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠					
		健康づくり（介護予防）に取り組む地域の拠点としての役割が大きい事業であり、参加者数を把握することで、市民の介護予防意識の向上の状況がわかる。										コロナ禍で元気塾開催を見合わせている状況を考慮し、令和元年度の実績値より低い目標値から、毎年2%前後の増加を目標とした。
		②目標事項： ロコトレ教室参加者数										
		K P I : 5年後に40人										
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値	12人	20人	25人	30人	35人	40人	単年度計	↑				
実績値	12人	16人	11人	21人	16人							
達成度	100%	80.0%	44.0%	70.0%	45.7%							
K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠							
介護予防及び地域での自立した日常生活支援を目的に実施している事業であり、参加者数を把握することで、市民の運動機能向上の取組み状況がわかる。										令和元年度の実績をベースに、毎年5名ずつ増加することを目指した。		
③目標事項：												
K P I :												
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値												
実績値												
達成度												
K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠							
令和6年度	評価（C）	担当課評価	音楽介護予防教室については市民から育成した市民音楽健康指導士が全ての教室運営を担い、プログラムの作成やシフト作成を行い、市と密に連携していくことにより、より地域に密着した通いの場として定着しており、その結果が目標値達成につながったと評価する。ロコトレ教室は、泉佐野市田尻町理学療法士会の理学療法士をアドバイザーとして配置し、教室の運営推進に取り組んだ。利用者の生活課題の洗い出しや目的の共有、教室終了後の生活像のイメージやアフターフォローと、きめ細やかな支援を行い、成功事例を積み上げ、利用者への対応としては質の高いサービスの提供ができたと評価している。一方で、利用者の数に伸び悩んでおり、要因としては手続きの煩雑さと、介護予防ケアマネジメントの報酬額が低いことにより、効果的であることや、介護予防が重要であるということを認知しながら利用がしにくいという意見がある。									
		C										
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】										
		音楽介護予防教室は月2回実施の会場を含め、月のべ77回の教室を開催している。今後も市民音楽健康指導士のスキル維持・向上に努めながら、町会等も含め更なる連携を図り、より効果的で安全な介護予防教室を実施していく。7年度においては、市民音楽健康指導士の5期生育成を計画しており、より安定的な教室運営を目指していく。ロコトレ教室では、大阪府から介護予防アドバイザーの派遣を依頼しており、9月30日に地域包括支援センターと居宅介護支援事業所向けに介護予防の普及啓発と、市の介護予防事業についての講演を予定している。また、ロコトレ教室の手続きの簡素化についても、質を落とさないことを念頭に慎重に取り組んでいく方針。										
	委員会意見	【評価等に対する意見】										
委員会評価												

- A : 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B : ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C : 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D : 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E : 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課	自治振興課								
基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する										
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり										
具体的施策	⑤地域づくり										
事業名	防犯推進事業										
事業概要	【最終予算額： 2,882,000円】 【決算額： 2,882,000円】										
	地域の街頭犯罪等を未然に防止するため、町会等が、自ら管理するLED式防犯灯を整備（新設及び蛍光灯式からLED式への更新）する事業に対し補助金を交付することにより、地域住民の自主防犯意識の高揚に寄与することを目的とする事業。										
計画（P）→実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 防犯灯のLED化率									
		KPI： 5年後に100%									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	60%	80%	90%	100%	100%	100%	累計	↑	
		実績値	63.1%	72.5%	76.9%	78.3%	80.5%				
		達成度	105.17%	90.63%	85.44%	78.30%	80.50%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		町会等によるLED式防犯灯整備事業の成果を測る指標である。					町会等が管理・整備する全ての防犯灯のLED化率100%を早期に達成するため、年間10%程度の向上を目標とする。				
		②目標事項：									
		KPI：									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値									
		実績値									
		達成度									
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	令和5年度の実績値は78.3%であり、2.2%の増加。 町会連合会加盟83町会中、LED化率100%＝16町会。90%以上100%未満＝26町会。 80%以上90%未満＝9町会。								
		C									
令和6年度	改善（A）	【7年度における取り組みなど】 本事業について、令和7年度も泉佐野市防犯推進事業費補助金(LED式防犯灯新設・更新事業)により事業を継続する。LED化率は増加傾向にあるが、不特定多数の者が往来する街路等を照らし、市内における街頭犯罪を未然に防止するため、さらなる防犯灯LED化を促進する。特に既存の蛍光灯式防犯灯からLED式防犯灯への更新を促進する。LED化を促進することにより、防犯灯にかかる電気料金が安価となり、同補助金防犯灯電気料金負担事業についても支出を抑える効果を見込む。									
		【評価等に対する意見】									
		委員会評価									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	自治振興課
----------	-----	-------

基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	⑤地域づくり
事業名	町会連合会の加入促進事業への補助金
事業概要	【最終予算額： 21,726,000円】 【決算額： 21,439,000円】 町会連合会が主体的に実施する加入促進事業のうち、町会連合会を構成する町会等が、その加入世帯に配布する町会活動促進袋（市認定家庭系可燃ごみ袋）を調達（製作・保管・配送）する事業に対し補助金を交付することにより、加入率向上に寄与することを目的とする事業。

計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 町会加入率									
		KPI： 5年後に67%									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	61%	63%	64%	65%	66%	67%	累計	↑	
		実績値	58.7%	57.6%	56.3%	54.9%	52.9%				
		達成度	96.23%	91.43%	87.97%	84.46%	80.15%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		町会連合会による加入促進事業の成果を測る指標である。					近年、単身世帯の増加等を要因として、町会加入率は下落傾向にあるが、補助金の交付その他の支援を継続することにより、毎年1%程度の向上を期待するもの。				
		②目標事項：									
		KPI：									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値									
		実績値									
		達成度									
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課 評価	町会活動促進袋（市認定家庭系可燃ごみ袋）配布が加入率増加に即効性のある事業ではないが、町会・自治会会員のメリットになっている。 令和6年度事業実績 泉佐野市町会連合会加盟83町会中83町会で実施。（年間12回配布）								
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】									
		本事業について、令和7年度も活動促進袋調達事業の実施主体である泉佐野市町会連合会が、泉佐野市町会連合会事業費補助金により事業を継続する。その他の加入勧奨活動としては、新規加入世帯に対する「さのぼ」ポイント付与事業を継続、市職員が町会・自治会役員に同行して行う未加入世帯への加入勧奨活動及び町会・自治会へのインセンティブとして、新規加入世帯1世帯あたり5,000円の報奨金（新規加入割）を交付する制度を継続し、引き続き加入勧奨を進める。									
		【評価等に対する意見】									
委員会意見	委員会 評価										

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	地域共生推進課
----------	-----	---------

基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	⑤地域づくり
事業名	認知症支援事業
事業概要	【最終予算額： 10,216,000円】 【決算額： 9,266,000円】 超高齢社会において、認知症高齢者が急増しているが、認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人の意思が尊重され、認知症の人が認知症と共によりよく生きていけるよう、できる限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現をめざします。具体的には、認知症支援推進員を中心に、認知症サポーター養成講座の開催等による地域での認知症への意識啓発活動や、本人・家族支援、予防活動等、認知症にやさしい地域づくり等に努める事業。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 認知症サポーター養成講座									
		KPI： 5年後に9,500人									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値	6,913人	7,500人	8,000人	8,500人	9,000人	9,500人	累計	→	
		実績値	6,913人	7,391人	7,646人	7,864人	8,169人				
		達成度	100%	98.5%	95.6%	92.5%	90.8%				
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
		この数値を把握することで、市民の認知症に対する正しい知識と理解の向上の進捗状況がわかる。					令和元年度の実績をベースに、毎年500人を対象に養成講座を実施することを目標として設定した。				
		②目標事項：									
		KPI：									
			現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考
		目標値									
		実績値									
		達成度									
		KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠				
③目標事項：											
KPI：											
	現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考		
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠					KPI目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課評価	認知症サポーター養成講座は、泉佐野市内の認知症キャラバンメイトと協力し、サポーターを増やしている。今年度は、認知症サポーター養成講座の開催回数を前年よりも2回多く開催し、合計13回の実施を行っている。キャラバンメイト連絡会を年2回実施しており、キャラバンメイト連絡会間の情報交換を活発に行うことはできたが、目標値には到達できなかった。								
		B									
		改善（A）	【7年度における取り組みなど】 今後も引き続き、泉佐野市内の認知症キャラバンメイトと協力し、認知症の理解を地域住民に広める活動を行い、認知症サポーターを養成していく。また、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」より、都道府県及び市町村は、それぞれ都道府県計画・市町村計画を策定（認知症の人及び家族等の意見を聴く。）することを努力義務として示しており、第10期介護保険事業計画、高齢者福祉計画に包含する形で策定を進めていく方向で検討している。								
		委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価										

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分	担当課	地域共生推進課
----------	-----	---------

基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑤地域づくり	
事業名	地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）【再掲】	
事業概要	【最終予算額：12,007,000円】 【決算額：12,007,000円】	
	地区福祉委員会が主催する高齢者や障害者等への見守り訪問活動【個別支援活動】や孤立防止や地域での仲間づくり、介護予防等の目的で開催する交流会や高齢者サロン活動【グループ支援活動】の支援を行う。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 個別支援活動実施世帯数									
		K P I : 5年後に2,160世帯／年									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	2,116世帯／年	2,120世帯／年	2,130世帯／年	2,140世帯／年	2,150世帯／年	2,160世帯／年			
		実績値	2,116世帯／年	2,236世帯／年	2,211世帯／年	2,320世帯／年	2,324世帯／年				
		達成度	100%	105.5%	103.8%	108.4%	108.1%				
		K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠				
		各地区福祉委員会において実施している個別支援活動の実施世帯数を把握することで、要支援者への支援活動の進捗状況がわかる。					コロナ禍で個別支援活動を一部制限している状況を考慮し、令和元年度の実績値をベースに、毎年10世帯ずつ増加させることを目標とした。				
		②目標事項： グループ支援活動回数									
		K P I : 5年後に2,800回／年									
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値	2,761回／年	2,760回／年	2,770回／年	2,780回／年	2,790回／年	2,800回／年					
実績値	2,761回／年	1,554回／年	2,403回／年	2,525回／年	2,620回／年						
達成度	100%	56.3%	86.8%	90.8%	93.9%						
K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠						
各地区福祉委員会において実施しているいきいきサロンや世代間交流会などのグループ支援活動の回数を把握することで、地域住民同士がつながりを持つことができる機会の進捗や、支援体制の広がりがわかる。					コロナ禍でグループ支援活動の開催を見合わせている状況を考慮し、令和元年度の実績値をベースに、毎年10回増加させることを目標とした。						
③目標事項：											
K P I :											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
K P I 設定の根拠					K P I 目標数値の積算根拠						
令和6年度	評価（C）	【6年度評価】									
		担当課 評価 B	個別支援活動については、感染対策を行いつつ継続的に実施し、増加傾向を維持できていることは評価できる。また、グループ支援活動については、新型コロナウイルス感染症による影響で大きく減少したものの、コロナ禍以前の数値近くまで回復してきている。								
	改善（A）	【7年度における取り組みなど】									
		今後も積極的な活動を支援することでグループ支援活動の回数の増加を図り、地域住民同士がつながりを持つことができる機会を設けられるよう支援する。									
委員会意見	【評価等に対する意見】										
	委員会 評価										

- A : 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B : ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C : 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D : 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E : 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 6 年度分		担当課		まちの活性課							
基本目標	④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する										
基本的方向	スマートシティの推進										
具体的施策	⑥行政・地域のデジタル化										
事業名	キャッシュレスや地域通貨の活用推進										
事業概要	【最終予算額：44,850,000円】 【決算額：43,796,908円】										
	官民連携による地域ポイント「さのほ」を通じて、地域外への経済流出を防ぐこと、及び新たな地域内経済への流入を増やすことで、地域内経済循環を高めることで、自立した地域経済の活性化を図るもの。										
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： 地域内消費額									
		KPI： 5年後に30億円									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	10億円	20億円	22億円	25億円	27億円	30億円	累計	↑	
		実績値	13.3億円	28.6億円	49.4億円	76.8億円	108.4億円				
		達成度	133%	143.0%	224.5%	307.2%	401.5%				
		KPI設定の根拠				KPI目標数値の積算根拠					
		地域内消費額が当該事業の評価に直結するものと考えため				過去の伸び率を参考に目標値を設定					
		②目標事項： カード会員数									
		KPI： 5年後に45,000人									
		現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考	
		目標値	30,000人	35,000人	37,000人	40,000人	43,000人	45,000人	累計	↑	
		実績値	25,799人	34,008人	85,824人	104,591人	112,019人				
		達成度	86%	97.2%	232.0%	261.5%	260.5%				
		KPI設定の根拠				KPI目標数値の積算根拠					
利用者が当該事業の効果性の評価に直結するものと考えているため				最終目標を人口の概ね50%と設定し、5年間で割り戻した数値を各年度で設定							
③目標事項：											
KPI：											
現状値（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の単年・累計の別	指標の傾向	備考			
目標値											
実績値											
達成度											
KPI設定の根拠				KPI目標数値の積算根拠							
令和6年度	評価（C） 改善（A） 委員会意見	【6年度評価】									
		担当課 評価	他課イベントとの連携や「30%還元キャンペーン」へのポイント付与を行うことで、消費額・会員数ともに順調に伸びた。								
		A									
		【7年度における取り組みなど】 R5年度より導入したさのほアプリを活用し、利用者の利便性のみならず、加盟店舗側に対しても効率的に集客や販促ができるような取り組みを通して、取扱店舗の増加も目指していく。アプリを利用したスタンプラリーや、R4年度から行っている還元キャンペーン等でのポイント付与の目玉施策などにより会員増にに取り組む。									
委員会 評価		【評価等に対する意見】									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。